TruLux

22W型地上デジタルフルハイビジョンLED液晶テレビ

TLX-LED220B

取 扱 説 明 書

この度は**TruLux**製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

目 次

はじめに

この章では、本機をご利用いただく上での注意事項や付属品の説明など、最初に知っておいていただきたい内容を記載しています。

安全上のご注意

ご使用の前に本書、特に「安全上のご注意」をよくお読みいただき、正しく安全に使用してください。

この取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。これらは、あなたや他の人々への危害や、財産の損害を未然に防ぐための表示です。危害や損害の内容や程度に応じて、表示を以下のように区分しています。内容をよく理解していただいてから本文をお読みいただき、記載事項をお守りください。

警告 この内容をお守りいただかないと、人が死亡や大けがに至るような、重大な事故が起こる可能性があります。

注意 この内容をお守りいただかないと、人のけがや財産の損害をまねくことがあります。

移動、設置

- 本品にある通気口を塞がないで下さい。通気の良い場所に設置して下さい。
- 本品を湿気または埃が多いところ、ラジエター、ストーブなどの熱源、および他の熱を発生する設備(アンプを含む)から離れた場所に設置してください。
- 分極タイプと接地タイプの差込みプラグそれぞれの使用法に必ず従うようにします。分極タイプは大きさが異なる2枚の金属片で構成されたもので、接地タイプは2枚の金属片と共に、接地用の突起がさらに設けられているものです。 同梱の差込みプラグがご使用の差込み口に合わない場合、差込み口の取り替えが必要ですので、専門業者に取替え作業を依頼してください。
- メーカー推奨のアクセサリーや付属品のみ使用して下さい。
- メーカー推奨のまたは付属のカート、架台、 三脚、ブラケット、テーブルなどのみ利用するようにして下さい。特にカートで本品を移動する場合は、転倒などのためにけがしないように配慮する必要があります。
- 雷が鳴り出した場合や長時間使用しない場合は、差込み口からプラグを抜き取って下さい。
- 本品は家庭娯楽用向けに設計、製造されたものですので、工業向けのご利用は避けて下さい。
- 周囲に間隔を空けないで設置すると、通気孔がふさがって内部に熱がこもり、火災や故障の原因となります。下記以上の間隔を空けて、熱がこもらないように設置してください。
  上部 : 30 cm
  左右 : 10 cm
  背面 : 6 cm
- アンテナ工事には技術と経験が必要ですので、必ず電気店ご依頼ください。

- 水がある場所での本品の使用は避けて下さい。
- 本品の掃除は、乾いた柔らかい布で行うようにします。液体性、アルコール性、エアゾール性のクリニーング剤を吹き付けたりしないで下さい。
- 絶対にバックカバーを外さないで下さい。本品には、使用者による点検または交換を要する部品はありません。
- 点検や部品の交換は専門業者に委託してください。具体的に、電源サプライのケーブルまたは差込みプラグが損傷した場合、水などの液体が本品内部に流れ込んだ場合、物が本品に落ちた場合、本品が雨または湿気でぬれた場合、正常に作動しない場合、本品を落とした場合などでは、修理に出してください。
- 水などの液体が流れる場所やそれらの液体にかかる恐れが場所への取り付けは避けて下さい。また、液体が入っている容器を本品の上に置かないで下さい。
- 電撃危険マークや関連の警告記号は本品のバックパネルに付いていますので、それらに記載されている内容に従うようにして下さい。
- ファンの通気孔や通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。
- 火災・感電の原因となることがあります。
- ガラスが割れ、飛び散ったガラスにより、けがの原因となります。
- 周囲の人の迷惑とならないよう適度の音量でお楽しみください。特に、夜間での音量は小さい音でも通りやすいので、窓を閉めたりヘッドホンを使用したりして、隣近所への配慮を充分にし、生活環境を守りましょう。ヘッドホンを使用されるときは、耳を必要以上に刺激しないよう、適度な音量でお楽しみください。耳を強く刺激するような大きな音で長時間続けて聞くと、聴覚に悪い影響を及ぼすことがあります。耳鳴りがするような場合は、音量を下げるか、使用を中止してください。また、ヘッドホンをつけたまま眠ってしまうと、災害時等に避難が遅れてしまうなどの危険があります。呼びかけられたら返事ができるくらいの音量でお聞きください。

電源コード・プラグ

- 電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと発熱したり、ほこりが付着して火災・感電の原因となることがあります。また、電源プラグの刃に触れると感電することがあります。

- 電源コードの被覆が溶けて火災・感電の原因となることがあります。
- 電源線、特にプラグや接続部の部分が、踏みつけられたり、挟まれたりするような場所への配置は避けてください。
- 電源線を上から重いもので押さえつけたり、通路に近いところに設置したりしないで下さい。この場合、差込み口の近くにて使用するように心掛けて下さい。
- 電池を入れたままにしておくと、過放電により液がもれ、故障・火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
- 電池の破損・液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

乾電池

- 間違えると電池の破損・液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

- 電池を入れたままにしておくと、過放電により液がもれ、故障・火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
- 電池の破損・液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
- 電池は飲み込むと、窒息の原因となったり、胃などに止まったりして大変危険です。飲み込んだ恐れがあるときは、ただちに医師と相談してください。
- 電池の液が目に入ったときは、失明の恐れがありますので、こすらずにすぐにきれいな水で洗ったあと、ただちに医師の治療を受けてください。
- 皮膚や衣類に付着した場合は皮膚に傷害を起こす恐れがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。皮膚の炎症など傷害の症状があるときは、医師に相談してください。

廃棄

- 一般の廃棄物と一緒にしないでください。ごみ廃棄場で処分されるごみの中に本機を捨てないでください。

使用上のご注意・お手入れについて

液晶画面について

- 液晶画面を太陽にむけたままにすると、液晶画面を傷めてしまいます。屋外や窓際には置かないでください。
- 液晶画面を強く押したり、ひっかいたり、上に物を置いたりしないでください。画面にムラが出たり、液晶パネルの故障の原因になります。
- 寒いところでご使用になると、画像が尾を引いて見えたり、画面が暗く見えたりすることがありますが、故障ではありません。温度が上がると元に戻ります。
- 静止画を継続的に表示した場合、残像を生じることがありますが、時間の経過とともに元にもどります。
- 使用中に画面やキャビネットがあたたかくなることがありますが、故障ではありません。

輝点・滅点について

- 画面上に赤や青、緑の点（輝点）が消えなかったり、黒い点（滅点）が表れたりしますが、故障ではありません。液晶画面は非常に精密な技術で作られており、99.99%以上の有効画素がありますが、ごくわずかの画素欠けや常時点灯する画素があります。

メモリーに保存されるデータに関するご注意

- 本機のメモリーには、各種の機能設定データや放送局からのメール、番組購入履歴などが記録されます。
- 本機のメモリーには、放送事業者の要求によりお客様が入力した個人情報や、データ放送のポイントなどが記録される場合があります。
- 本機を廃棄、譲渡などする場合には、上記のメモリーに記録されているデータを消去することを強くおすすめします。
- 本機の不具合・修理など、何らかの原因で、本機のメモリーに保存されたデータが破損・消滅した場合など、いかなる場合においても記録内容の補償およびそれに付随するあらゆる損害について、当社は一切責任を負いかねます。また、いかなる場合においても、当社にて記録内容の修復は致しません。予めご了承ください。

スクリーン画面のお手入れについて

- お手入れをする前に、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 液晶の画面は特殊加工がされていますので、なるべく画面に触れないようにしてくください。また画面の汚れをふきとるときは、乾いた柔らかい布でふきとってください。
- アルコール、シンナー、ベンジンなどは使わないでください。変質したり、塗装がはげたりすることがあります。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その販売会社にご確認下さい。
- 布にゴミが付着したまま強くふいた場合、傷が付くことがあります。
- 殺虫剤のような揮発性のものをかけたり、ゴムやビニール製品に長時間接触させると、変質したり塗装がはげたりすることがあります。

外装のお手入れについて

- 乾いた柔らかい布で軽くふいてください。汚れがひどいときは、薄い中性洗剤溶液を少し含ませた布でふきとり、乾いた布でカラ拭きしてください。
- アルコールやベンジン、シンナー、殺虫剤をかけると、表面の仕上げを傷めたり、表示が消えてしまうことがあるので、使用しないでください。
- 布にゴミが付着したまま強くふいた場合、傷が付くことがあります。
- ゴムやビニール製品に長時間接触させると、変質したり、塗装がはげたりすることがあります。

アンテナについて

- 妨害電波の影響を避けるため、交通のひんぱんな自動車道路や電車の架線、送配電線、ネオンサインなどから離れた場所に立ててください。
- アンテナ線を不必要に長くしたり、束ねたりすると、映像が不安定になる原因となりますのでご注意ください。
- アンテナは風雨にさらされるため、定期的に点検、交換することを心がけてください。美しい映像でご覧になれます。特にばい煙の多いところや潮風にさらされるところでは、アンテナが傷みやすくなります。映りが悪くなったときは、お買い上げ店にご相談ください。

電磁波妨害に注意してください

- 本機の近くで携帯電話などの電子機器を使うと、電磁波妨害などにより機器相互間での干渉が起こり、映像が乱れたり雑音が発生したりすることがあります。

長時間ご使用にならないとき

- 長時間使用しないと機能に支障をきたす場合がありますので、ときどき電源を入れて作動させてください。

国外では使用できません

- この製品が使用できるのは日本国内だけです。外国では放送方式、電源電圧が異なりますので使用できません。
  This product is designed for use in Japan only and cannot be used in any other country.

B-CASカードは必要なときだけ抜き差ししてください

- 必要以外に抜き差しすると、故障の原因となることがあります。
- B-CASカードの中にはICが内蔵されています。折り曲げたり、大きな衝撃を加えたり、端子部に触れたりしないようにご注意ください。
- 本機に差し込むときは「逆差し込み」や「裏差し込み」にならないように挿入してください。

結露について

- 本機を寒い場所から急に暖かい場所に持ち込んだときや、冬の朝など暖房を入れたばかりの部屋などで、本機の表面や内部に結露が起こることがあります。結露が起きたときは、結露がなくなるまで電源を入れずにお待ちください。そのままご使用になると故障の原因となります。

取り扱い上のご注意

- 液晶画面を強く押したり、ボールペンのような先の尖ったもので押さないでください。また、落としたり強い衝撃を与えないようにしてください。液晶画面のパネルが割れることがあります。
- 振動の激しいところや不安定なところに置かないでください。また、絶対に落としたりしないでください。故障の原因となります。

使用環境について

- 本機を冷えきった状態のまま室内に持ち込んだり、急に室温を上げたりすると、動作部に露が生じ（結露）、本機の性能を十分に発揮できなくなるばかりでなく、故障の原因となることがあります。このような場合は、よく乾燥するまで放置するか、徐々に室温を上げてからご使用ください。

急激な温度差がある部屋（場所）でのご使用は避けてください

- 急激な温度差がある部屋（場所）でのご使用は、画面の表示品位が低下する場合があります。

リモコンの取り扱いについて

- 落としたり、踏みつけたり、液体をこぼしたりしないよう、ていねいに扱ってください。
- 直射日光が当たるところ、暖房器具のそばや湿度が高いところには置かないでください。

映像や音声の遅れについて

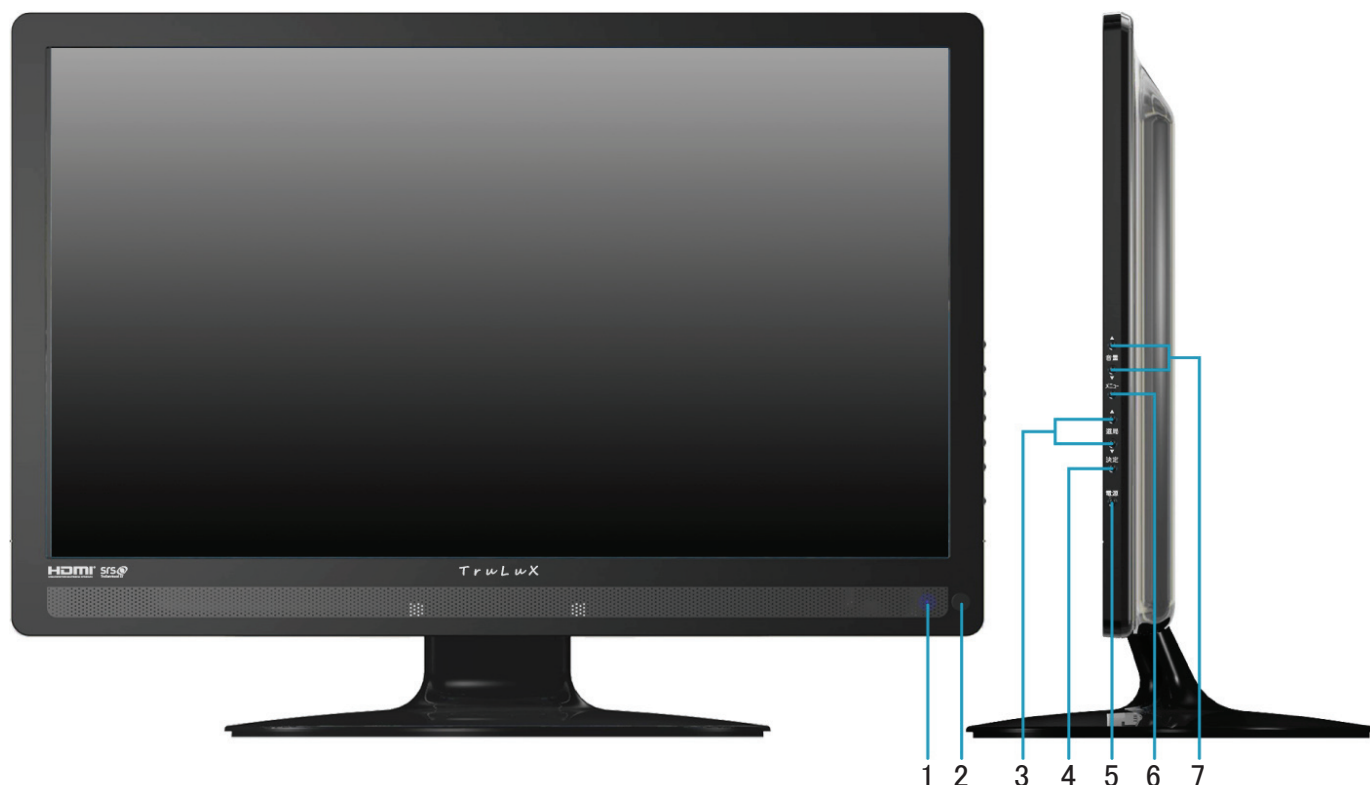
- テレビ放送、外部入力のソースによっては、映像や音声に若干の遅れが生じる場合があります。映像、音声でリズムを取るテレビゲームやカラオケ機器によっては、違和感を感じる場合がありますが、故障ではありません。予めご了承ください

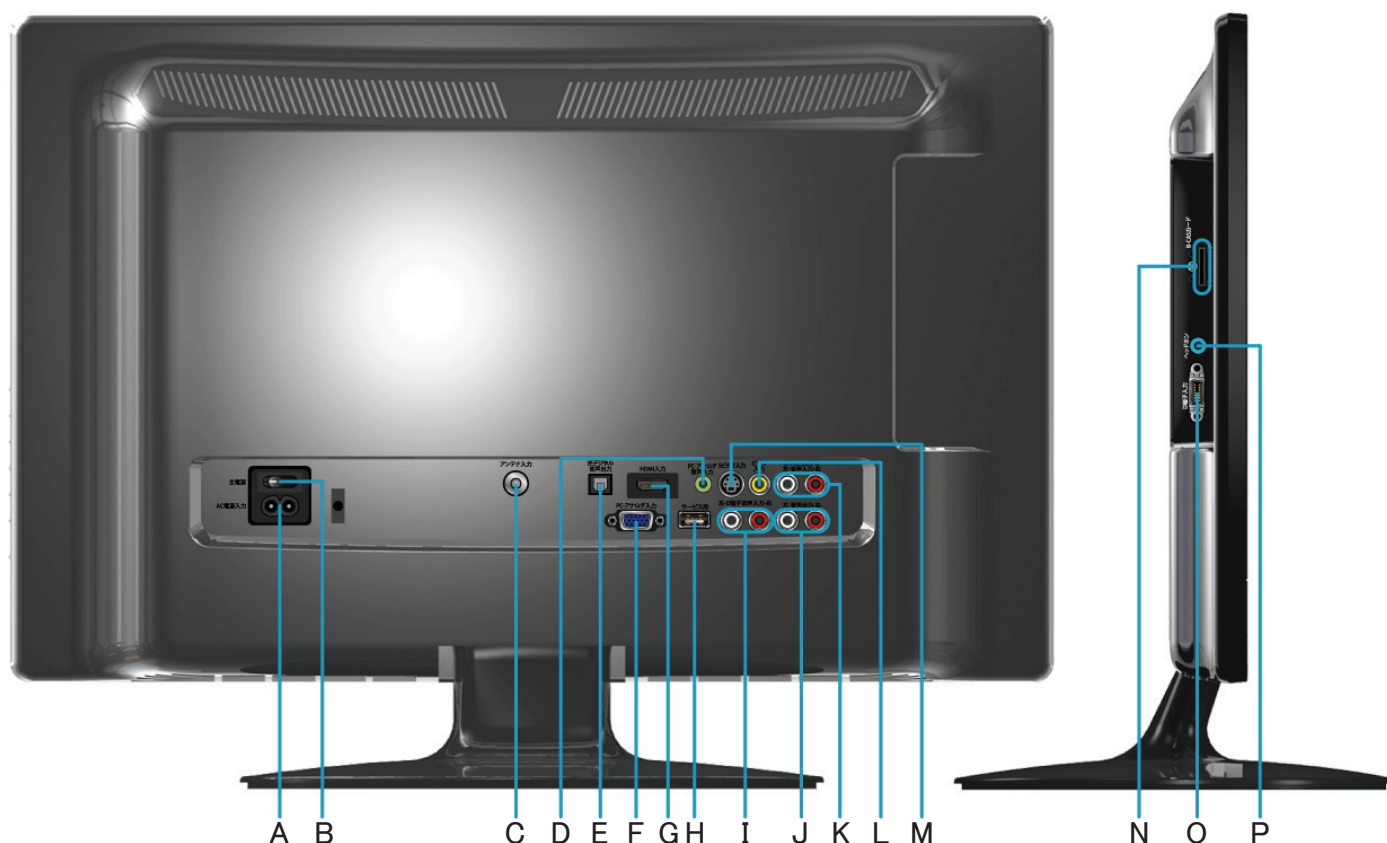
付属品

箱を開けたら、付属品がそろっているか確かめてください。

液晶テレビ	台座
取扱説明書	保証書
リモコン	リモコン用単4電池　2本
電源コード	アンテナケーブル
mini B-CASカード	mini B-CAS カバー + ネジ
ケーブルホルダー	

各部の名前

本体操作部

1	**リモコン受光部** リモコンの信号を受信します。
2	**電源LEDインジケータ** 赤点灯:スタンバイ(リモコンで電源オフ)状態、ブルー点灯:電源オン状態。
3	**チャンネル +/−** チャンネルの順送りによる選局を行います。 また設定メニューから項目を選択するのにも使います。
4	**入力切換** 入力信号の選択を行います。 一度押すと入力選択画面が表示され、さらに押すごとに入力が切り換わります。
5	**電源スイッチ** 待機状態(電源ランプ:赤)と電源オン(電源ランプ:青)の切り換えを行います。
6	**メニュー** 設定メニューを表示します。
7	**ボリューム +/−** スピーカーからの音量調整を行います。 また設定メニューからの調整にも使います。

本体接続部

A	**電源入力** 付属のAC(電源)ケーブル(電源コード)を接続します。
B	**主電源スイッチ** AC電源切り替え(必ずオンに)。
C	**アナログ/ 地上デジタルアンテナ入力** アンテナケーブルを使用してアナログ、地上デジタルアンテナを接続します。
D	**PC-アナログ入力(音声)** 市販の音声ケーブル(ミニステレオ)を使用してパソコンを接続します。
E	**光デジタル音声出力** 市販の光ケーブルを使用して対応機器を接続します。 (AAC 5.1CH 出力のみ)
F	**PC-アナログ入力(映像)** 市販のVGAケーブルを使用してパソコンを接続します。
G	**HDMI入力** 市販のHDMIケーブルを使用して対応機器を接続します。
H	**USB端子(サービス用)** 業者サービス限定のコネクター。
I	**D端子入力(音声)** 市販の音声ケーブルを使用して対応機器を接続します。
J	**オーディオ出力端子** 市販の音声ケーブルを使用して対応機器を接続します。

K	**ビデオ/ Sビデオ入力（音声）** 市販の音声ケーブルを使用して対応機器を接続します。
L	**ビデオ入力** 付属（市販）の映像ケーブルを使用して対応機器を接続します。
M	**S-ビデオ入力** 市販のSビデオケーブルを使用して対応機器を接続します。
N	**B-CASカード（挿入口）** B-CASカードを挿入します。
O	**D端子入力（映像）** 市販のDケーブルを使用して対応機器を接続します。
P	**ヘッドホン** 別売のヘッドホンを接続します。

リモコン

1. 電源

電源のオン・オフをします。

2. 地上A

地上アナログ放送(NTSC-M)に切り替えます。

3. 地上D

地上デジタル放送(ISDB-T)に切り替えます。

4. 1-12 数字ボタン

チャンネルの直接選局に使用します。

5. 音量+/-

音量の上げ/下げをします。

6. 番組説明

現在視聴している番組の詳細情報を表示します。

7. デジタルメニュー

デジタルメニューの内容を表示します。

8. ▲, ▼, ◀, ▶, 決定

▲, ▼, ◀, ▶ :オン・スクリーン・ディスプレー(OSD)機能の検索および調整をします。

決定:お好みの設定を確定します。

9. 設定メニュー

デジタル受信設定以外の設定メニューを開きます。

10. 映像切換

「スタンダード」、「ダイナミック」及び「ユーザー」の三つのモードが用意されています。その中の「ユーザー」モードでは、お客様の好みで画質設定ができます。(☞46ページ:画質モード参照)

11. 静止画

ボタンを押した時点の映像を静止画として表示します。

12. スリープ

オフタイマーの設定をします。

13. 画面表示

受信チャンネルなどの情報表示のしかたを切り換えます。

※アナログテレビの場合、チャンネル番号/音声モード/映像モード/タイマー時間が表示されます。地上デジタル放送の場合、番組情報・チャンネル番号/映像モード/タイマー時間が表示されますが、デジタル信号の番組情報・チャンネル番号は約5秒表示されて消えます。もう一度このボタンを押すと、映像モード/タイマー時間の表示は消えて、もう一度、番組情報・チャンネル番号が表示されます。（約5秒間）

14. 消音

消音モードのオン・オフをします。

15. 番組表

EPG番組表を表示します。

16. 選局▲/▼

ボタンを押して、チャンネルを順送りに選局します。

17. 入力切換

入力モードを切り替えます。

18. 戻る

オン・スクリーン・ディスプレー（OSD）メニューで前の画面に戻ります。

19. 音声切換

アナログ放送視聴時は、ステレオ・モノラルまたは主/副音声を切り換えます。デジタル放送時視聴時は、複数の音声があるときに音声を切り換えます。

20. 字幕

字幕サービス付きのデジタル放送番組で、字幕表示を無効または有効にします。

21. 画面モード

画面モードを選択します。

デジタル放送について

本機では地上デジタル放送と地上アナログ放送を視聴することができます。デジタル放送では、以下のようなアナログ放送には無い機能を楽しむことができます。

デジタル放送の特徴

高画質・高品質

デジタル放送では、従来のアナログ放送でみられるようなゴースト（映像の二重化）やスノーノイズ（雪が舞っているようなちらつき）といった映像の乱れが起こりません。なかでもデジタルハイビジョン放送では、アナログの通常放送と比較して走査線数（ブラウン管方式のテレビの映像の細密度を示す指数）で約2倍、解像度にして約8倍の高精細映像を楽しむことができます。音声についても、音質が劣化しにくい方式で伝送しているため、高音質な音声を再現できます。

字幕放送

デジタル放送の番組のせりふなどの音声を、文字にして画面に表示させることができます。

電子番組表（EPG）

デジタル放送では、送られてくるデータの中に番組の情報が含まれています。これを利用して画面上に番組表を表示することができます。

文字スーパー

地域情報や速報など、番組に連動しない文字情報（文字スーパー）を画面に表示 することができます。

アナログ放送の終了（停波）について

地上アナログ放送およびＢＳアナログ放送は2011年7月24日までに放送を終了することが、国の方針として決定されています。

本機で視聴可能なデジタル放送の種類

本機で視聴できるデジタル放送は、地上デジタルのみです。
衛生デジタル放送（BSデジタル、110度CSデジタル、SKY PerfecTV!など）には対応しておりません。

BSデジタルと110度CSデジタルの衛星は、同じ東経110度上にあるため、1つのアンテナで受信できます。

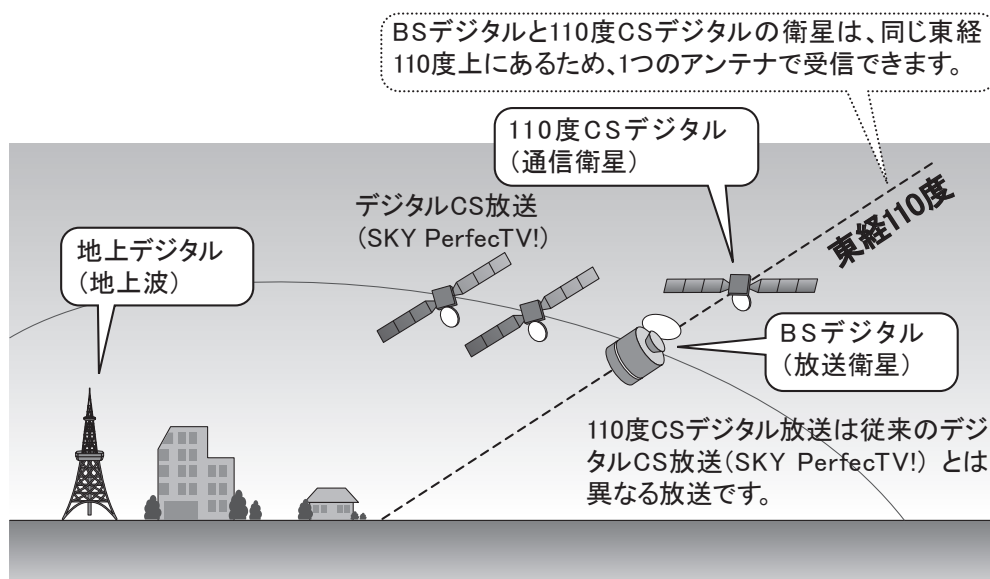
110度CSデジタル
（通信衛星）

デジタルCS放送
（SKY PerfecTV!）

東経110度

地上デジタル
（地上波）

BSデジタル
（放送衛星）

110度CSデジタル放送は従来のデジタルCS放送（SKY PerfecTV!）とは異なる放送です。

デジタル放送を視聴するための準備

アンテナ等について

デジタル放送を視聴するためには、受信用のアンテナの用意をする必要があります。準備の仕方は、本機をご使用になる環境によってことなります。詳しくはお買い上げ店等でご確認ください。

ケーブルテレビをご利用の場合

本機はケーブルテレビのパススルー方式（同一周波数またはUHF帯域周波数変換）および帯域外周波数パススルーに対応しております。詳しくはご契約のケーブルテレビ事業者にお問い合わせください。

お知らせ

- 地上デジタル放送の受信には、UHFアンテナを使用します。現在お使いのアンテナがUHF対応のものであれば、基本的にそのままご使用いただけますが、場合によっては調整やブースターの追加が必要になることもあります。詳しくは販売店等にお問い合わせください。
- 本機は地上デジタル専用のアンテナ入力端子を備えています。UHFアンテナを、地上デジタル専用に使用することもできます。

機器の準備をする

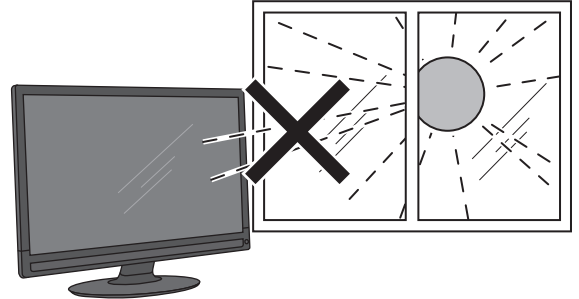
この章では、本機や本機に接続する機器の設置および設定方法についてご説明いたします。

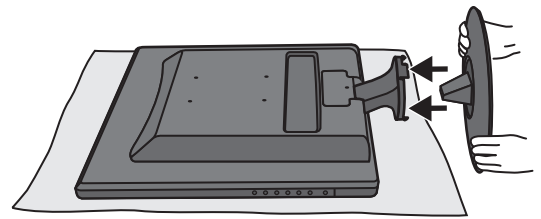
設置のしかた

本機は重量のある精密機器です。運搬や設置を行う際は、落下や転倒に十分注意してください。また、動作が安定する場所に設置するようにしてください。設置はできるだけ専門業者に依頼してください。

設置の手順

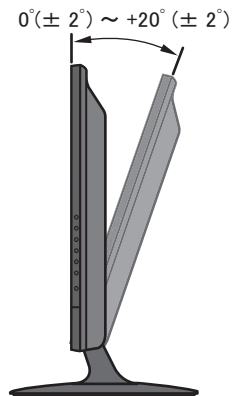
1. 置く場所を決める

- 直射日光が当たらず、気温が安定している場所を選んでください。
- グラつきなどがなく、きちんと固定できる場所を選んでください。

2. 台座取付向き注意

- 画面を傷つけないように毛布や保護シートを敷き、画面を下にして本機を置く。
- 台座を本機のツメと台座の穴を合わせて差し込み、カチッと音がするまで押し付ける。

ご注意

- 液晶パネル部に手を触れないようにご注意ください。

■前後方向の角度調整をするには･･･

本機の角度を見やすい位置に調整することができます。倒れたりしないよう、スタンド部分をしっかりと押さえて調整してください。

3. 配置する

ご注意

- 本機が転倒するとお客様の怪我や本機の故障につながります。市販の転倒防止器具で転倒防止策を行ってください。

通風口について

通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。風通しの悪い場所（棚や押入れの中など）や、絨毯や布団の上に置かないでください。また布をかけたりしないでください。定期的に掃除機で通風孔にたまったごみを除去してください。

B-CASカードを入れる

B-CASカードについて

- 地上デジタル放送が視聴制限に使用しているのがB-CASカードです。
- デジタル放送をお楽しみいただくためには、B-CASカードを、本機に挿入していただくことが必要です。
- 付属のB-CASカードは地上デジタル専用（ブルーカード）です。

お知らせ

- B-CASカードに関するお問い合わせは、カードの裏面記載の（株）ビーエス・コンディショナルアクセスシステムズ　カスタマーセンターまでお願いいたします。
（TEL：0570-000-250）

B-CASカードの入れかた

- 本機の電源を切る。
- 同梱の「ビーキャス（B-CAS）カード使用許諾契約約款」の内容を読み、了解していただいた上で、台紙からB-CASカードをはがす。
- B-CASカードを挿入する。

お知らせ

- B-CASカードには視聴情報などが記憶されますので、本機に入れたままご使用ください。
- B-CASカードの盗難等にご注意ください。他人がお客様のカードを使用して有料番組を視聴した場合も、視聴料はお客様の口座に請求されます。
- B-CASカードは（株）ビーエス・コンディショナルアクセスシステムズから貸与されているものです。本機を廃棄なさる場合は同社にご返却ください。また本機を他の人に譲渡なさる場合は、新しい所有者の名義に変更してください。

取扱い上のご注意

- B-CASカードを折り曲げたり、傷つけたりしないでください。破損等によるB-CASカードの再発行は有料です。
- B-CASカードの金属部（集積回路）には触れないでください。
- B-CASカードの抜き差しは、必要な場合を除いて行わないようにしてください。

リモコンについて

電池の入れ方

- バッテリカバーを開ける。
- ⊕極、⊖極の向きを確認し、正しい方向で単4電池2本を入れる。
- カバーがカチッというまで押して閉める。

ご注意

乾電池は誤った使い方をすると液漏れや破裂することがあります。特に以下の点に注意してお使いください。

- 違う種類の乾電池を混ぜて使用しない。
- 新しい乾電池と古い乾電池を混ぜて使用しない。
- 使えなくなった乾電池はすぐに取り出す。
- 液漏れした乾電池は使用しない。
  漏れた液に触れると肌が荒れることがあります。万一、液が身体についた時は、水でよく洗い流してください。

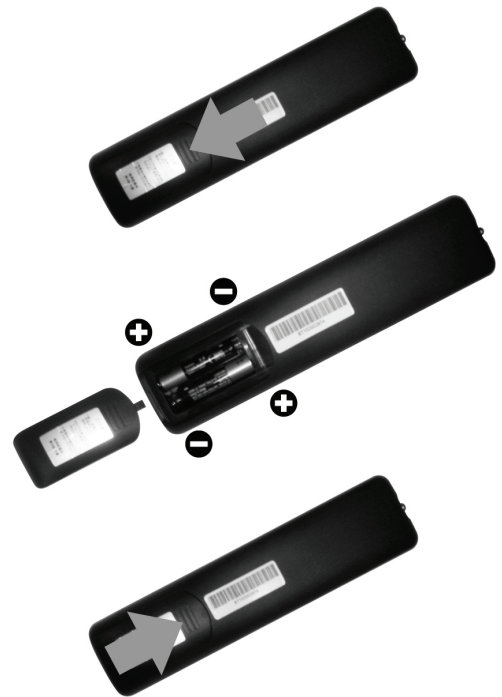
お知らせ

- 付属の乾電池は動作確認用です。早めに新しい電池と交換してください。
- リモコンを長く使わないときは電池を取り出しておいてください。
- 乾電池を廃棄するときはお住まいの自治体で定める廃棄方法に従ってください。

操作のしかた

本体のリモコン受光部に向けて操作してください。

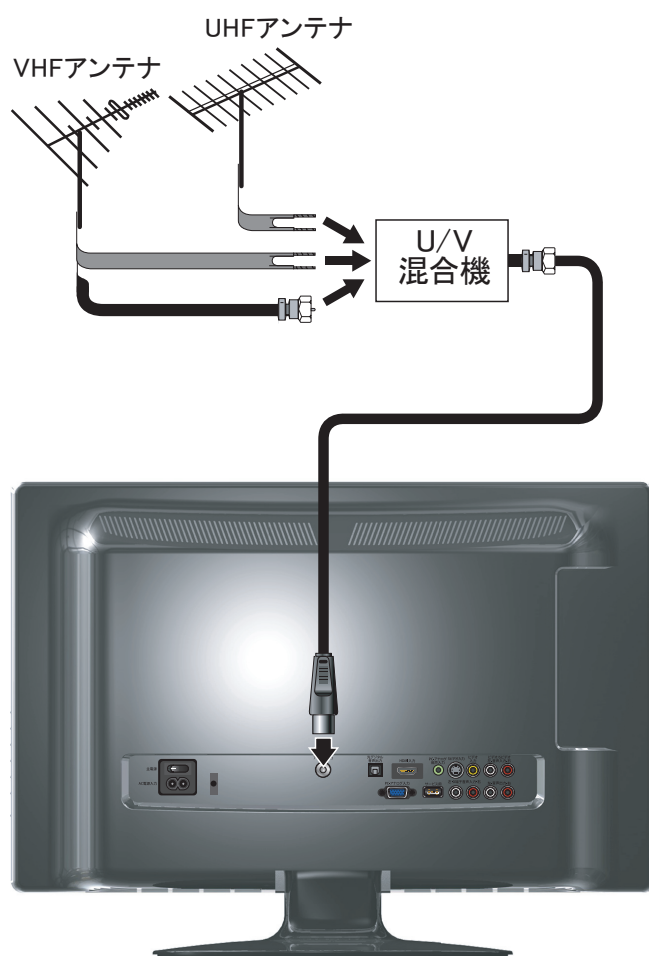
ご注意

- リモコンには衝撃を与えないでください。また、水に濡らしたり温度の高い所に置いたりしないでください。
- リモコンは直射日光の当たる場所に取り付けたり、放置したりしないでください。熱により変形することがあります。
- 本体のリモコン受光部に直射日光や強い照明が当たっているとリモコンが動作しにくくなることがあります。その場合は照明または本体の向きを変えるか、リモコン受光部にリモコンを近づけて操作してください。
- リモコンを操作してもテレビが動作しない場合は、新しい乾電池と交換してください。

アンテナの接続

ご注意
アンテナの取り付け・配線は、必ず専門業者にご依頼ください。

アンテナを接続する

単独での接続

- 地上デジタル放送の受信には、UHFアンテナを使用します。ご使用中のUHFアナログ放送と地上デジタル放送が同じ送信所から送られている場合は基本的に現在ご使用中のアンテナをそのままご使用いただけますが、場合によっては角度等の調整やブースターの追加が必要になることもあります。詳しくは販売店等にお問い合わせください。
- 現在UHF　放送を受信していない場合、またはUHFアナログ放送と地上デジタル放送が異なった送信所から送られている場合は、新たにUHFアンテナをご購入ください。地上デジタル放送専用のアンテナ設置をお勧めします。
- 本機をご購入いただく前にアナログ専用のテレビを使用されていた場合は、そのテレビに接続していたアナログアンテナのケーブルを本機のアナログアンテナ入力端子に接続してください。VHFとUHFを別々の端子に接続していた場合は、別売りのU/V混合器をご使用ください。
- 地上デジタル用のアンテナを地上デジタルアンテナ入力端子に接続するときは、アンテナケーブル（別売）を使用してください。
- ご自宅のアンテナ線がフィーダー線の場合は、円筒形の同軸ケーブルに変換するため、アンテナ整合器(別売)をお使いください。
- ケーブルテレビをご利用の場合、ケーブル会社からの再送信の方式によって接続のしかたが異なります。詳しくは、ケーブルテレビ会社にお問い合わせください。

マンションなどの共聴システムでの接続

まずはお住まいのマンションなどが、地上デジタルにどのように対応しているかを、マンション管理会社などにご確認ください。

他の機器との接続

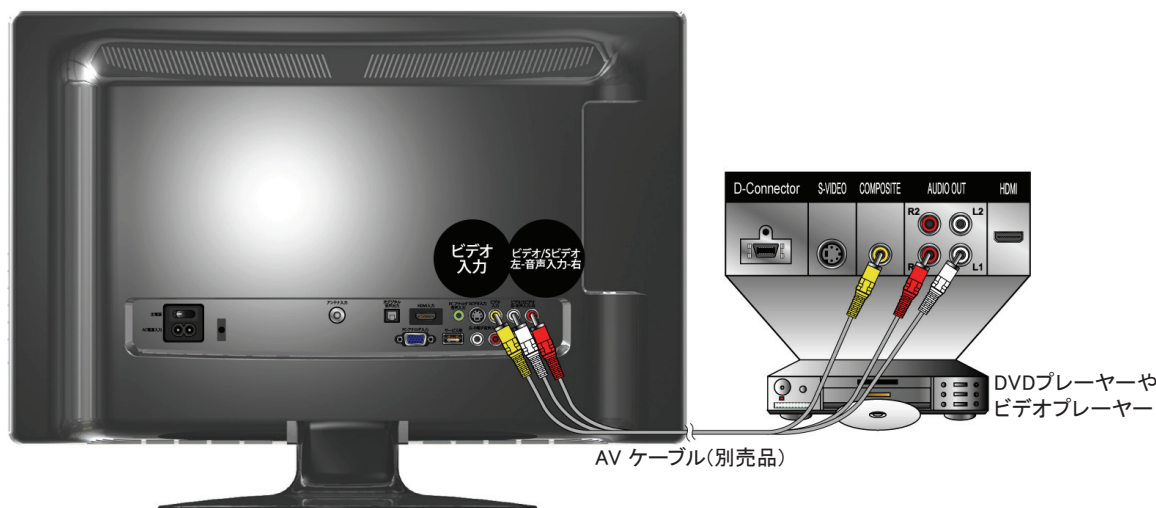
本機をDVDプレーヤー、HDDレコーダー、ビデオカメラ、ゲーム機、パソコンなどと接続してモニターとして使用することができます。

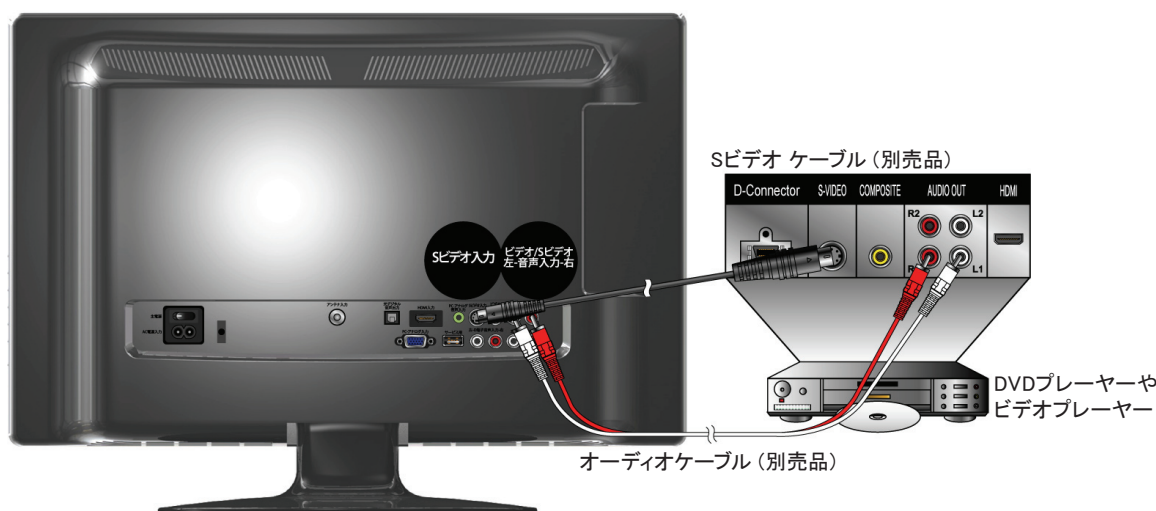
ご注意

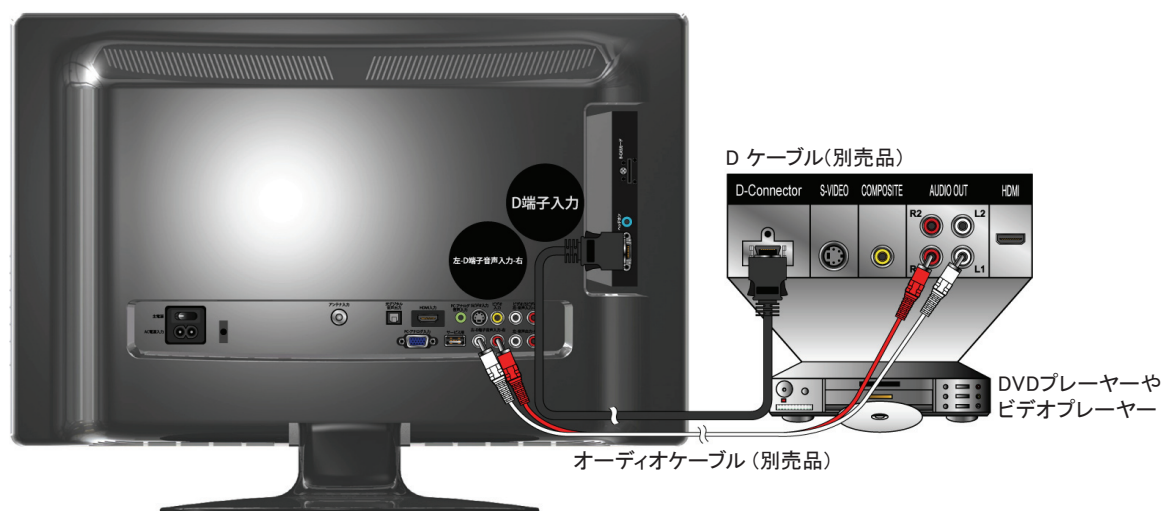
- 接続の前に、本機や接続する機器の電源をお切りください。
- 接続ケーブルの抜き差しは、ケーブルでなくプラグを持ってしっかりと行ってください。
- ノイズが出る場合は、機器間の距離が十分にとれるように配置してください。
- 接続する機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

DVDプレーヤーなどを接続する

映像入力端子に接続する

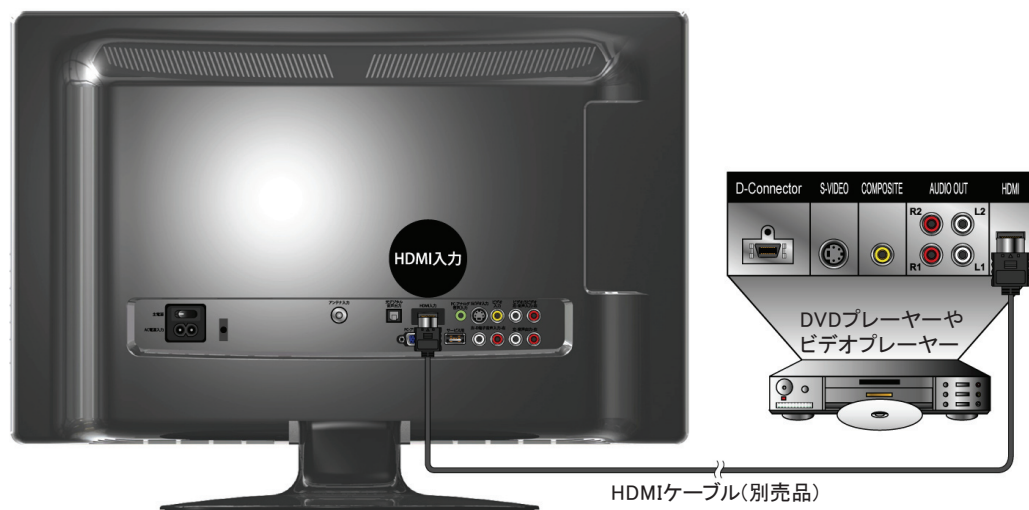
黄、赤、白のAVケーブルでVCRなどのAV出力端子と、本機のAV入力端子を接続します。プラグと端子の色をそれぞれ合わせるようにしてください。

S映像入力端子に接続する

Sビデオケーブルで AV入力端子に接続することもできます。Sビデオの方がAV入力端子での接続より良い画質が得られます。音声については、前述同様AVケーブル(赤、白)で接続します。

D端子に接続する

D端子出力のある機器とDケーブルで接続します。音声はAVケーブルでD端子用の音声入力端子に接続します。

お知らせ

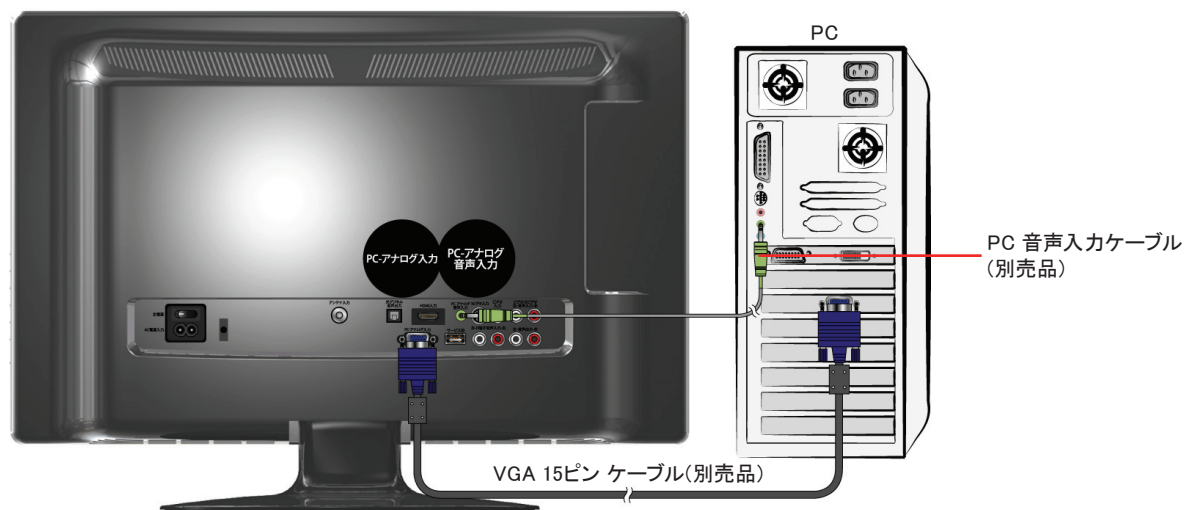
- 本機のD端子はD5規格です。これはD端子規格の中でD1、D2、D3、D4およびD5入力信号を自動的に判別して表示する機能を持った端子です。この場合、音声出力は市販のミニステレオ･ピンジャック変換ケーブルを使用して、本機のD端子に接続してください。
- 接続機器によっては、出力をD端子に設定しなければ信号を出力しないものがあります。映像が表示されない場合は、接続する機器の取扱説明書をご覧頂き、設定してください。

HDMI端子に接続する

市販のHDMIケーブルを使い、HDDレコーダー、デジタルチューナーなどのHDMI出力と本機のHDMIをつないでください。

お知らせ

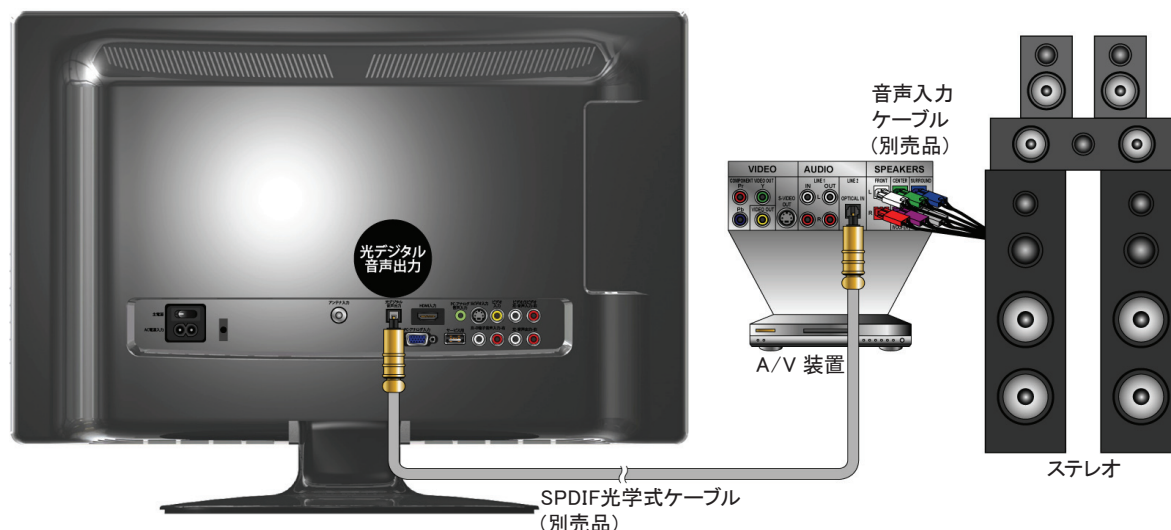
- パソコンなどのDVI出力のある機器とも、DVI–HDMI変換ケーブルを使うことで接続することができます。 この場合は接続する機器の音声出力を、パソコン接続と同様（☞23ページ参照）**PC音声入力ケーブル**を使用して接続してください。
- 映像、音声が表示、出力されない場合は、接続する機器の説明書などで出力機器の設定をご確認ください。

パソコンを接続する

VGAケーブルでパソコンのVGA出力と、本機のVGA入力を接続します。音声は、音声ケーブル(ミニステレオ)を接続します。

お知らせ

- 全てのパソコンでの動作検証は行っておりません。(Macintoshなど、Windows 2000/XP以外の動作は検証しておりません。)また、パソコンのビデオカードなどによっては、上記のフォーマットでも表示できない場合があります。

AVアンプなどを接続する

市販の光デジタルケーブルでAVアンプなどの光デジタル音声入力と、本機の光デジタル音声出力を接続します。光デジタル接続を使用することにより、AVアンプなどから音声を出力することができます。5.1chの、臨場感のある高音質な音声を楽しむことができます。

お知らせ

- この端子からはデジタル放送(地上)受信時のみ出力されます。
- AAC 5.1CH 出力のみ。

ヘッドホンを接続する

市販のヘッドホンのプラグを、本機のヘッドホンジャックに接続します。

お知らせ

- ヘッドホンを接続すると、本機のスピーカーから音が出なくなります。

ご注意

- ヘッドホンを使用されるときは、耳を必要以上に刺激しないよう、適度な音量でお楽しみください。耳を強く刺激するような大きな音で長時間続けて聞くと、聴覚に悪い影響を及ぼすことがあります。耳鳴りがするような場合は、音量を下げるか、使用を中止してください。また、ヘッドホンをつけたまま眠ってしまうと、災害時等に避難が遅れてしまうなどの危険があります。呼びかけられたら返事ができるくらいの音量でお聞きください。

外部ステレオでテレビ音声を出力

本体にあるオーディオ出力端子と、ステレオ側の端子を対応ケーブル（別売）で接続してください。

電源コードの接続

接続する

全ての接続が終わったら、最後に付属のAC（電源）ケーブル（電源コード）を接続してください。
接続の際は、まず壁側のプラグを接続してから本機側のプラグを接続してください。

電源に関するご注意

- 電源コードは必ず最後に接続してください。
- 付属のAC（電源）ケーブル（電源コード）は、本機専用です。他の機器では使用しないでください。また、本機に他のAC（電源）ケーブルを使用しないでください。
- 電源プラグは、抜き差しがしやすい位置の、壁のコンセントに直接差すようにしてください。
- 接続後は、電源プラグをコンセントに差したままご使用ください。
- 使用中に電源プラグを抜いたり、電源を突然遮断しないようにしてください。設定等が無効になってしまうことがあります。

テレビを見る

この章では、テレビを見るための基本的な使いかたについて説明しています。

電源と音量

入力モードの選択、チャンネル選択、音量の調整などの基本的な操作は、同梱のリモコンまたはテレビ本体の右側面部にあるパネルボタンで行うことができます。

電源を入れるまでに

テレビを使い始める前に以下の事項を確認してください。

1. 外部機器が正しく接続されていること。
2. 電源コードが接続されていること。
3. 本体の背面に設置されている電源メインスイッチがオンに設定されていること。オンに設定されると、電源LEDインジケータが赤に点灯。また、本品を長い時間使用しない場合には、このスイッチをオフに設定することをお勧めします。

電源

本体右側面部にある**[電源]**ボタンか、リモコンにある**[電源]**ボタンを押すと、テレビのオン/オフができます。オンの場合、電源LEDインジケータが青に点灯します。

ご注意

本機は電源スイッチを切っただけでは完全に電源から切り離されておらず、常に微弱な電流が流れています。旅行などで本機を長時間使用されないときは、コンセントを抜いて（電源ランプ:消灯）ください。

音量

本体右側面部にある**[ボリューム]**ボタンかリモコンの**[＋音量ー]** ボタンで音量を調整します。
音を消すには、リモコンの**消音**ボタンを押してください。
消音状態を解除するときは、もう一度消音ボタンを押すか、**[ボリューム]**/**[＋音量ー]** ボタンを押してください。

スリープタイマー

[スリープ]ボタンを押すと、指定した時間に電源が切れるオートオフ機能を設定できます。ボタンを押すたびに、次の設定時間を選択できます。
15分間、30分間、45分間、60分間があります。この機能を無効にしたい場合、0 分間に設定します。

テレビを見るための準備

ご注意
本機を初めてご利用される場合は、下記の設定を行ってください。設定を行わないと、テレビ放送を正常に受信できないため、視聴できるはずの番組が視聴できなくなります。

デジタル放送を見るための準備

1. 条件を整える

デジタル放送を受信するには、以下の準備が必要です。詳しくは、本書の「機器の準備をする」章（☞16ページ）をご覧ください。

- 専用のアンテナを接続する
- B-CASカードの準備をする

2. 本機の設定を行う

本機を初めてご利用される場合や、お客様の居住エリアが変わった場合は、初期設定を行う必要があります。デジタルメニューの「チャンネルスキャン」の項目でまずデジタルメニューに入り、次に「地域の選択」（☞34ページ）の設定を行ってください。

アナログ放送を見るための準備

1. 条件を整える

アナログ放送を受信するには、以下の準備が必要です。詳しくは、本書の「機器の準備をする」章（☞16ページ）をご覧ください。

- 専用のアンテナを接続する

2. 本機の設定を行う

本機を初めてご利用される場合や、お客様の居住エリアが変わった場合は、初期設定を行う必要があります。設定メニューの「チャンネル」の各設定を行ってください。（☞50ページ）

チャンネルを選ぶ

お知らせ

- チャンネルを選んでから映像が切り換わるまでに時間がかかる場合がありますが、映像信号の変換等に時間がかかるためで、故障ではありません。
- 放送局番号と物理チャンネル
  デジタル放送では1つのチャンネルで最大3つの番組を放送できます。このため、チャンネルを指定しただけではどの番組を見るのか特定できません。そこで、3桁の放送局番号によって番組を特定できるようになっています。最初の2桁が放送局を示し、最後の1桁でそのチャンネルのどの番組かを指定します。
  また、今までのUHF帯のチャンネル番号をこの放送局番号と区別するために「物理チャンネル」と呼んでいます。

入力を切り換える

- **[地上A]**/**[地上D]**または**[入力切換]**を押して放送の種類を選ぶ。
- **[入力切換]**を押すと画面左上に入力種別が表示されます。[▲▼]を押すか、**[入力切換]**を引き続き押してご覧になりたい放送種別を反転表示させ、そのまま2秒お待ちになるか**[決定]**または[◀ ▶]を押すと入力が切り換わります。

チャンネル番号で選局する（ワンタッチボタン選局）

お好みのチャンネルを数字ボタンで入力する。

選局ボタンで選局する

[**▲選局▼**]を押して選局する。

裏番組表で選局する（デジタル放送のみ）

1. **[番組表]**（裏番組表）を押す。
2. [◀ ▶]を押してチャンネル（番組）を選ぶ。
3. **[決定]**を押す。

デジタル放送を楽しむ

共通の操作

チャンネル情報を表示する

チャンネル情報を表示させます。

- **[画面表示]**を押す
  もう一度**[画面表示]**を押すと、表示が消えます。

音声を切り換える

スピーカーから出力する音声を切り換えます。

- **[音声切換]**を押す
  押すごとに、番組ごとに設定された音声の選択肢の中で切り換わります。

映像を切り換える

画質モードの切り替えを行います。

- 選択項目
  スタンダード: 標準モードです。
  ダイナミック: カラー、シャープネス等をやや大きめに設定します。
  ユーザー: お客様のお好みに合わせて設定できます。

字幕を切り換える

本機に出力する字幕の言語を切り換えます。

- **[字幕]**を押す
  押すごとに、番組ごとに設定された字幕言語の選択肢の中で切り換わります。

電子番組表を表示する

電子番組表（EPG）を表示します。

- **[番組表]**を押す
  もう一度**[番組表]**を押すと、表示が消えます。

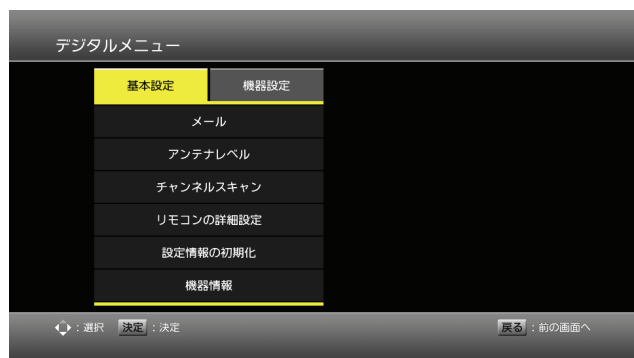
お知らせ

- 番組表を使用した選局や視聴予約はできません。
- 本機は、データ放送には対応していません。

番組説明と裏番組表を表示する

選択中の番組の内容説明と裏番組表を表示します。

- **[番組説明]**を押す
  もう一度**[番組説明]**を押すと、表示が消えます。

デジタルメニューの操作

デジタル放送をお楽しみいただく際のほとんどの操作は、デジタルメニューから行うことができます。

基本的な操作

デジタルメニュー中の操作方法は、原則的に以下の操作の組み合わせで行います。

1. **[デジタルメニュー]**を押す。
2. [▲▼◀ ▶]を押して項目を選ぶ（または数字ボタンで数字を入力する）。
3. **[決定]**を押して選択を確定する。

お知らせ

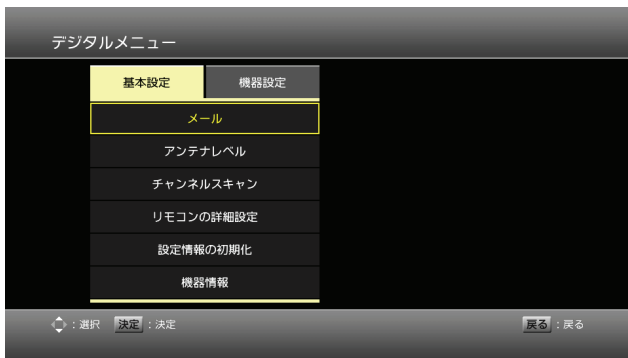
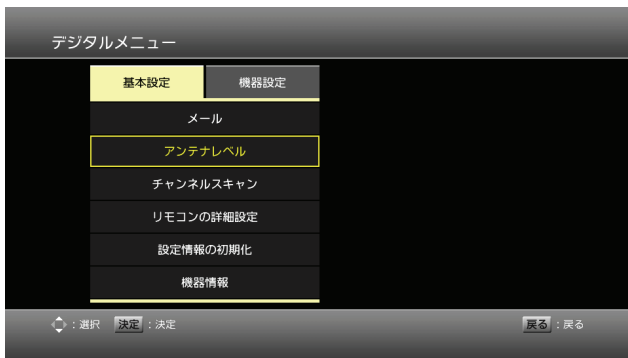
- **[戻る]**を押すとひとつ前の画面に戻ります。
- デジタルメニュー中で使用するリモコンのボタンは、画面に表示されますので、ご参照ください。

メール

放送波により通知され、受信機により作成されます。その受信機に保存された独自メールの一覧及び詳細を表示することができます。

1. [**デジタルメニュー**]を押す。
2. [▲▼]を押して**メール**を選び、[**決定**]を押す。
3. [▲▼]を押してメールタイトルが選択でき、[**決定**]を押す。

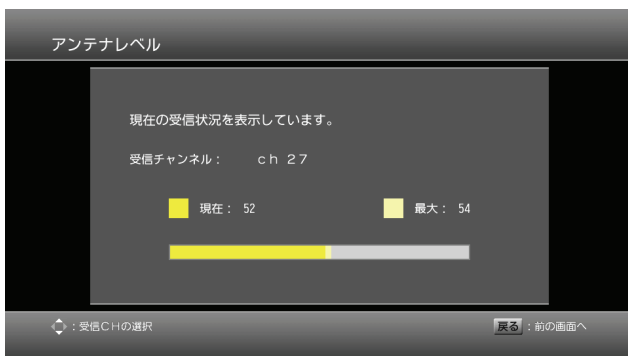
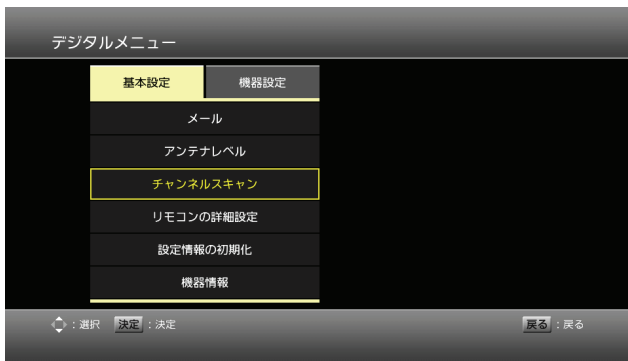
お知らせ

- [**戻る**]を押すとひとつ前の画面に戻ります。
- メールは最大12件まで表示できます。
- 最大件数を超えた場合は最も古いメールかつ既読のものを削除します。
- メールが1件も受信されていない場合、最上段のタイトル部分に"メールがありません"と表示されます。

アンテナレベル

現在視聴中の受信レベルをリアルタイムで表示することができます。

1. **[デジタルメニュー]**を押す。
2. [▲▼]を押して**アンテナレベル**を選び、**[決定]**を押す。

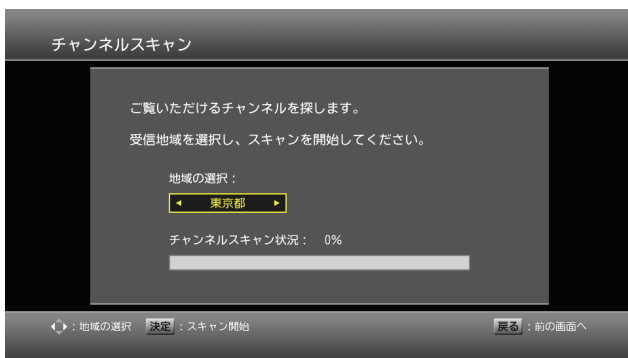
お知らせ

- **[戻る]**を押すとひとつ前の画面に戻ります。
- **[▲▼]**で放送選択、物理チャンネルが選択できます。
- 物理チャンネルの変更を行うことで受信状況が表示されます。

チャンネルスキャン

本機をご使用いただく地域での、受信可能なチャンネルのスキャンを行います。

1. **[デジタルメニュー]**を押す。
2. [▲▼]を押して**チャンネルスキャン**を選び、**[決定]**を押す。
3. [◀▶]を押して地域の選択、**[決定]**を押す。
4. チャンネルスキャン終了後は自動的に"ワンタッチボタンの確認・編集"が表示される。

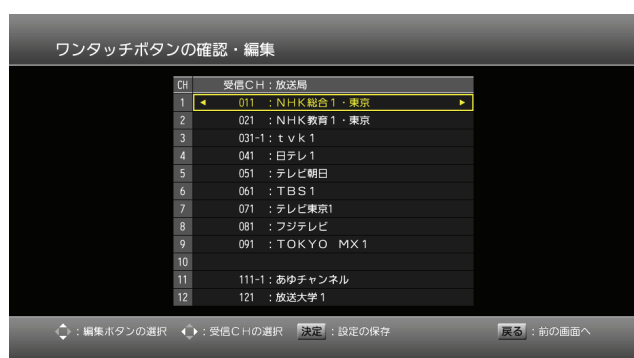
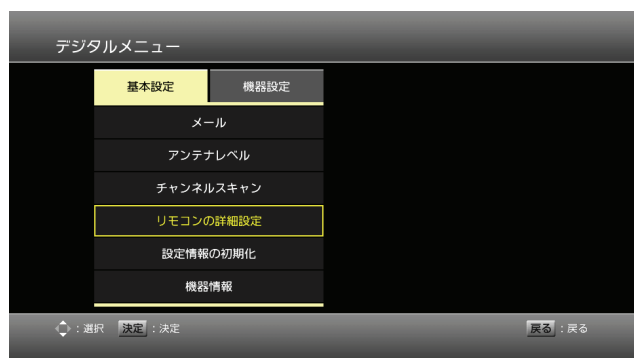
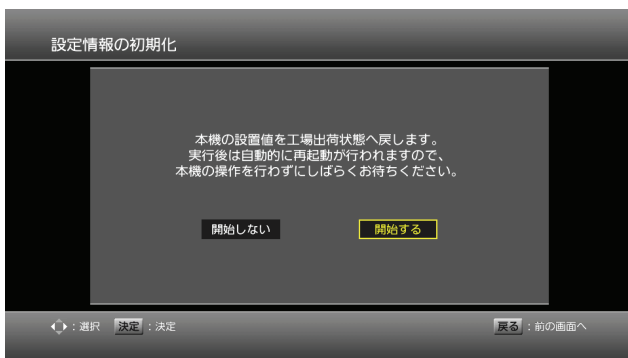
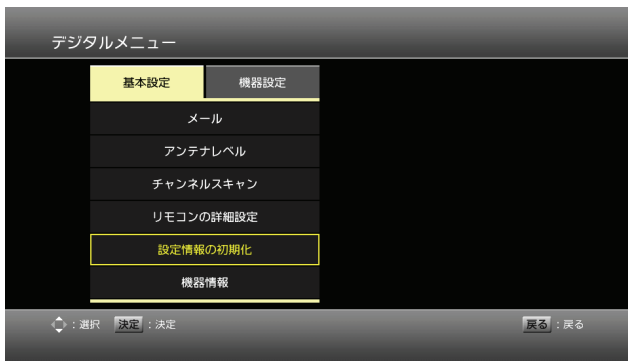
お知らせ

● **[戻る]**を押すとひとつ前の画面に戻ります。
● スキャンを中止（0～99%の間で**[デジタルメニュー]**又は、**[戻る]**を押す）した場合はラストチャンネルを選局します。

リモコンの詳細設定

数字キーに割り当てられている地上デジタル放送のワンタッチボタンの情報リスト表示及び、各数字キーへの設定追加、変更、解除を可能とします。

1. [**デジタルメニュー**]を押す。
2. [▲▼]を押して**リモコンの詳細設定**を選び、[**決定**]を押す。
3. [▲▼]でボタンに割り当てるリモコンボタンを選択し[**決定**]を押す。
4. [◀▶]でボタンに割り当てるチャンネルを選択し[**決定**]を押す。

お知らせ

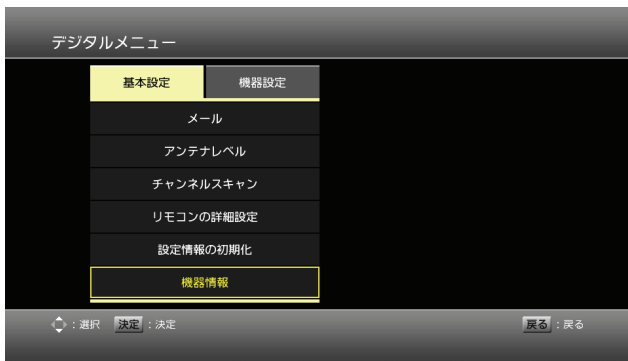
- [**戻る**]を押すとひとつ前の画面に戻ります。
- ワンタッチボタンへの割り当て可能数は最大12局までとします。
- 未スキャン時の場合、又はサービスが取得できなかった場合はチャンネルスキャン開始前の場合最上段に″チャンネルがありません″と表示されます。

基本設定

設定情報の初期化

工場出荷後にユーザー操作により設定が変更された内容を、工場出荷時の状態に復元することにより、受信機を購入した時点の状態へ戻すことを可能とします。

1. **[デジタルメニュー]**を押す。
2. [▲▼]を押して**設定情報の初期化**を選び、**[決定]**を押す。
3. 設定情報の初期化の”開始する”を選択し**[決定]**を押す。

お知らせ

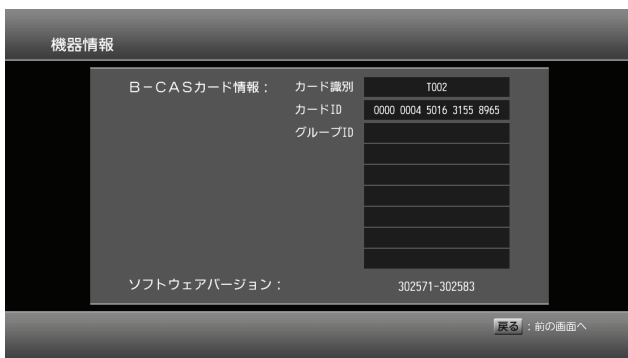
- **[戻る]**を押すとひとつ前の画面に戻ります。
- 設定情報の初期化実行直後、電源が立ち上がりチャンネルスキャン画面が表示されます。
- 初期設定時は、”東京都”が表示されます。

基本設定

機器情報

ユーザー操作によってICカード情報、及びソフトウェアバージョン情報の表示を可能にします。

1. **[デジタルメニュー]**を押す。
2. [▲▼]を押して**機器情報**を選び、**[決定]**を押す。
3. B–CASカード情報の下にBEBのソフトウェアバージョンを表記する。

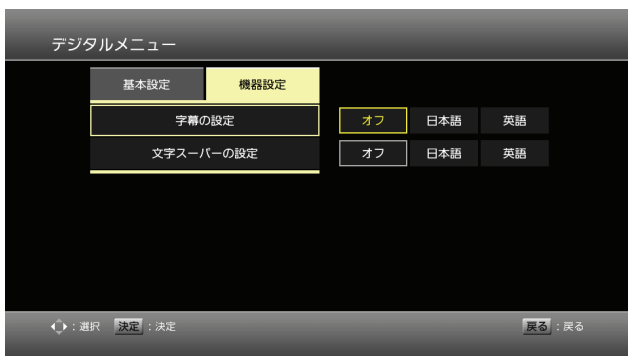
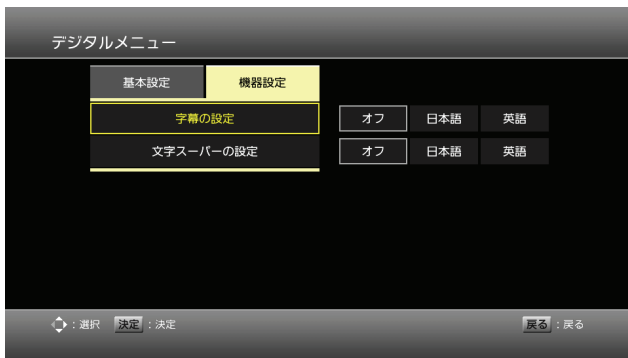
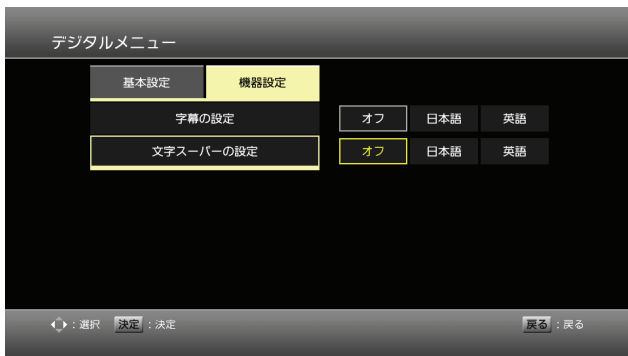
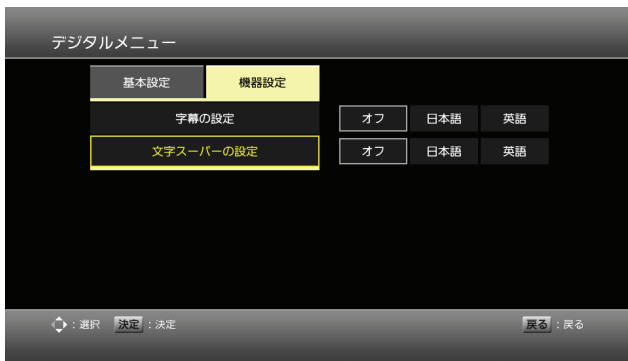
お知らせ

- **[戻る]**を押すとひとつ前の画面に戻ります。
- B–CASカード情報はカード識別、カードID、グループID（最大7個）を表示します。
- カード抜き挿しでICカード情報は更新されません。

字幕の設定

放送に字幕が送出されている場合に、表示するか否か、及び表示する場合の言語の指定を可能とします。

1. [**デジタルメニュー**]を押す。
2. [◀ ▶]を押して**機器設定**を選ぶ。
3. [▲▼]を押して**字幕の設定**を選び、[**決定**]を押す。
4. [◀ ▶]で字幕の項目を選択する、[**決定**]を押す。
   オフ：表示しない。
   日本語：字幕を日本語で表示。
   英語：字幕を英語で表示。

お知らせ

- [**戻る**]を押すとひとつ前の画面に戻ります。
- 初期設定時は、[**オフ**]になっています。

文字スーパーの設定

放送に映像・音声と共に文字スーパーが送出されている場合に、表示するか否か、及び表示する場合の言語の指定を可能とします。

1. **[デジタルメニュー]**を押す。
2. [◀ ▶]を押して**機器設定**を選ぶ。
3. [▲▼]を押して**文字スーパーの設定**を選び、**[決定]**を押す。
4. [◀ ▶]で文字スーパーの項目を選択する、**[決定]**を押す。
   オフ：表示しない。
   日本語：文字スーパーを日本語で表示。
   英語：文字スーパーを英語で表示。

お知らせ

- **[戻る]**を押すとひとつ前の画面に戻ります。
- 初期設定時は、**[オフ]**になっています。

番組を探す

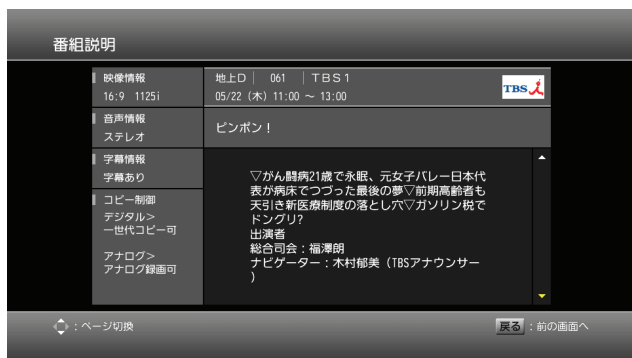
番組表から番組を探す

番組表は、1画面には1チャンネル分･6番組を一覧表示します。
画面上部にネットワーク名、チャンネル番号、サービス名、サービスロゴ。
右側上部に現在時刻、中央にイベント一覧を表示します。

1. **[番組表]**を押す。
2. [◀ ▶]でチャンネルを選択するカーソルの選択先は同一時間帯の番組となる。
3. [▲▼]を押して**番組表**を選び、**[決定]**を押す。

お知らせ

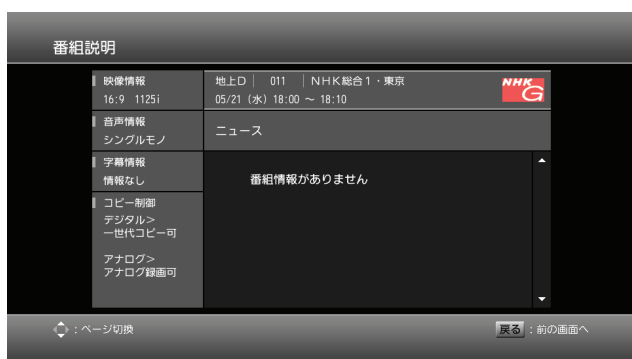
- **[戻る]**を押すとひとつ前の画面に戻ります。
- 番組表は時間経過により自動更新されます。
- 未スキャンの場合や時刻が取得できていない場合は番組表は起動できません（無動作となります）。
- 番組情報が取得できていない場合、タイトル部分に"番組情報がありません"と表示されます。

番組を探す

番組説明を見る

番組についての番組情報や内容説明の表示ができます。

1. 番組説明画面表示は、番組視聴中、または番組表表示中に**[番組説明]**、または**[決定]**を押す。

お知らせ

- **[戻る]**を押すとひとつ前の画面に戻ります。
- 番組説明が取得できていない場合、本文に”番組情報がありません”と表示されます。

一歩進んだ使いかた

この章では、他の機器を接続した場合の操作方法や、本機の設定を変える方法など、一歩進んだ使いかたについて説明しています。

つないだ機器を使う

つないだ機器の映像を見る

接続を確認する

接続を確認してください。

入力を切り換える

- [**入力切換**]を押す
- [**入力切換**]または[▲▼]を押して希望する入力を選ぶ
- 約2秒で入力が切り換わります。[◀ ▶]または[**決定**]を押せばすぐに切り換わります。

以下の順番で切り換わります。

パソコン：PC–アナログ入力端子に接続した機器の映像と音声を出力します。
HDMI：HDMIに接続した機器の映像と音声を出力します。
地上A：地上アナログ放送の映像と音声を出力します。
AV：ビデオ入力に接続した機器の映像と音声を出力します。
SV：S–ビデオ入力に接続した機器の映像と音声を出力します。
D：D入力に接続した機器の映像と音声を出力しま す。
地上D：地上デジタル放送の映像と音声を出力します。

つないだ機器を再生する

つないだ機器の取扱説明書をご覧いただき、機器を再生してください。

お知らせ

- [**戻る**]つないだ機器の再生からテレビ放送受信には、以下のボタンを押して切り換えることもできます。
- [**地上A**]/[**地上D**]：前回ご覧になっていたチャンネルを受信します。
- **数字ボタン**：前回ご覧になっていた帯域（地上アナログまたは地上デジタル）の選択されたチャンネルを受信します。（放送のないチャンネル番号が入力された場合は前回ご覧になっていたチャンネルを受信します。）
- [**▲選局▼**]前回ご覧になっていた帯域（アナログまたはデジタル）の前回ご覧になっていたチャンネルを受信します。

ご注意

パソコン入力の無い状態でパソコンを選択すると、直ちに本機の電源が切れます。この場合、[**地上A**]/[**地上D**]などを押すと、再び電源が入ります。

便利な機能

画面と音の簡易設定

画面モードを切り換える

ワンボタンで画格の切り換えを行います。

[画面モード]を押す

● **フル**
画面いっぱいに映像を出力します。入力信号によっては映像が上下に引き伸ばされます。

● **ズーム1**
映像の縦横比を維持したまま中心を基準に画面を拡大します。画面の外枠が一部欠けます。

● **ズーム2**
ズーム1の画面全体を上に動かし、画面下部に出る字幕が見えるようにします。

● **4:3**
映像の縦横比を維持するため、画面の左右に黒い部分ができる設定です。

● **パノラマ**
画面いっぱいに映像を出力します。入力信号によっては映像が左右に引き伸ばされます。

お知らせ

●入力の種類によって選択できる画面モードは異なります。
●**[画面モード]**を押して設定することもできます。

画面を静止させる

視聴中の画面の静止/再始動をします。

[静止画]を押す
もう一度押すともとに戻ります。

画面と音の簡易設定

音声を切り換える

スピーカー(またはヘッドホン)から出力する音声を切り換えます。

[音声切換]を押す

アナログ放送

● **ステレオ放送時**

ステレオ　　:ステレオ音声を出力します。
モノラル　　:モノラル音声を出力します。

● **2カ国語放送時**

メイン　:主音声を出力します。
サブ　　:副音声を出力します。
メイン/サブ:主音声と副音声を同時に出力します。

デジタル放送

● **主音声のみの場合**

音声1:主: 主音声を出力します。

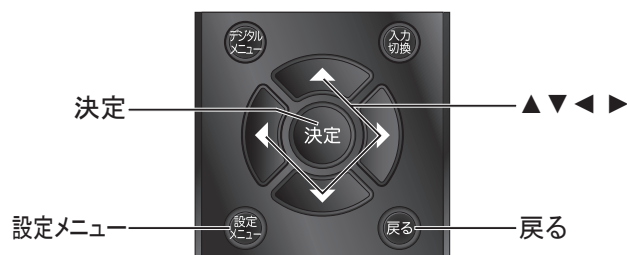
● **2ヶ国語モノラル放送時**

音声1:主: 主音声を出力します。
音声1:副: 副音声を出力します。
音声1:主/副: 主音声と副音声を同時に出力します。

● **2ヶ国語ステレオ放送時**

音声1:主: 音声1を出力します。
音声2:主: 音声2を出力します。

設定メニューを使う

設定メニューについて

本機をご使用いただく上での基本的な設定は、設定メニューを使って設定できます。

基本的な操作

設定メニュー中の操作方法は、原則的に以下の操作の組み合わせで行います。

[設定メニュー]を押す
[▲▼◀ ▶]で項目を選ぶ
[戻る]または再度**[設定メニュー]**を押して設定を確定する

画像

本機の画像を設定します。

お知らせ

PC(パソコン)入力・HDMI入力の場合はこのメニューの代わりに「PC(パソコン)設定」メニューが表示されます。

画質モード

画質モードの切り替えを行います。

- 選択項目
  スタンダード: 標準モードです。
  ダイナミック: カラー、シャープネス等をやや大きめに設定します。
  ユーザー: お客様のお好みに合わせて設定できます。

お知らせ

- **コントラスト/明るさ/色あい/色の濃さ/シャープネス/バックライト/省エネモード**は、**ユーザー**を選択した場合のみ設定できます。
- **[映像切換]**を押して設定することもできます。

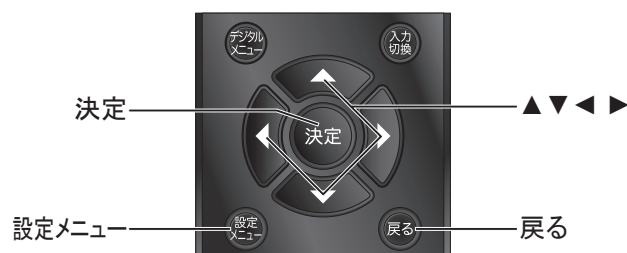
コントラスト

画面のコントラストを調整します。(右/ 高くなる、左/ 低くなる)

明るさ

画面の明るさを調整します。(右/ 明るくなる、左/ 暗くなる)

色あい

画面の色あいを調整 (右程緑調に、左程赤調に)。

色の濃さ

画面の色の濃さを調整します。（右/ 濃くなる、左/ 薄くなる）

シャープネス

画面の鮮やかさを調整します。（右/ シャープになります、左/ ソフトになります。）

バックライト

バックライトの明るさを調整します。

省エネモード

画面の明るさを抑えたり、消費電力を節約します。

色調

3段階の色温度を選択できます。
標準：標準の色の濃さに設定します。
暖色系：赤みの強い画面に設定されます。
寒色系：青みの強い画面に設定されます。

画面サイズ

画格の切り換えを行います。

● フル

画面いっぱいに映像を表示します。入力信号によっては映像が上下に引き伸ばされます。

● ズーム1

映像の縦横比を維持したまま中心を基準に画面を拡大します。画面の外枠が一部欠けます。

● ズーム2

ズーム1の画面全体を上に動かし、画面下部に出る字幕が見えるようにします。

● 4:3

映像の縦横比を維持するため、画面の左右に黒い部分ができる設定です。

● パノラマ

画面いっぱいに映像を表示します。入力信号によっては映像が左右に引き伸ばされます。

お知らせ

●入力の種類によって選択できる画面モードは異なります。
●[**画面モード**]を押して設定することもできます。

音声

本機の音声出力を設定します。

音声モード

音声モードの切り替えを行います。

- 選択項目
  スタンダード: 低音から高音までフラットな標準音質モード。
  シネマ: 低音とサラウンドをやや強めた臨場感のある音質モード。
  音楽: 低音と高音を強調し、メリハリのある音質モード 。
  ユーザー: 好みに合わせた音質モードの設定が行えます。

低音

低音の出力を調整します。

高音

高音の出力を調整します。

バランス

左右のスピーカーの音声バランスを調整します。

SRS

SRS TruSurround XT™ では、正真正銘の没入型サウンド体験が得られます。スピーカーが二つだけの環境でも、重厚な低音に鮮明な音声の再生が可能になります。

SRS TruSurround XT™ は特許認定済みのSRS 技術で、二つのスピーカーでの5.1マルチチャンネルのコンテンツを再生可能にしました。

- この機能をオンにすると、サウンド･モードの切り替えが無効になります。

設定画面

各種設定を行います。

水平位置
現在表示されている画面の水平位置を調整します。

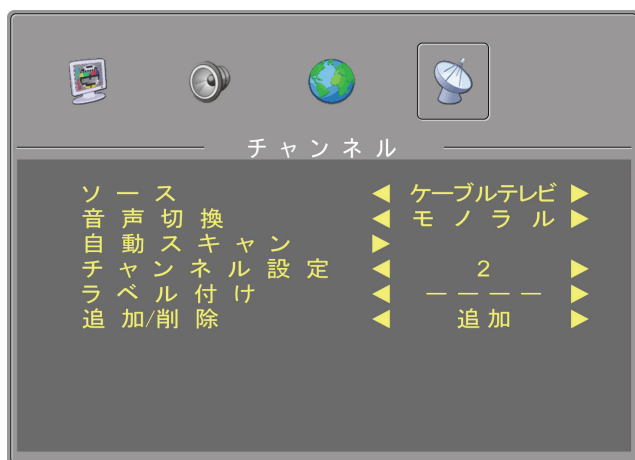
垂直位置
現在表示されている画面の垂直位置を調整します。

表示時間
画面の表示時間を設定します。（単位：秒）

言語
表示画面の言語を設定します。（日本語、英語選択可）

オーバースキャン
一般のテレビ受像器は、画像の端のゆがみやノイズを隠すために、送られて来た画面の周辺部を表示しないようにしています。この状態をオーバースキャンという。（ HDMIモードでのみ対応）

リセット
設定を初期状態に戻すことができます。この場合、▶ ボタンで操作します。

チャンネル

アナログ放送の受信設定を行います。

ソース

ご視聴の接続方法を下記のいずれからか選択します。
テレビ : 地上アナログ放送をアナログアンテナ接続で受信されている場合。
ケーブルテレビ: 地上アナログ放送をケーブルテレビ接続で受信されている場合。

音声切換

二重音声放送やステレオ放送のとき、モードを切り換えることができます。またニュースや洋画などの二ヶ国語放送で吹き替えの日本語(主音声)と英語などの外国語(副音声)の2種類の音声を楽しめます。

自動スキャン

受信できるチャンネルを自動検索します。初めてご使用になるときはこの項目に合わせて▸ボタン を押して、受信チャンネルを検索して、記憶させてください。

ご注意

すべてのチャンネルを自動選局して記憶した以降、自動選局機能のご利用は不要です。

チャンネル設定

チャンネル設定したいチャンネルを選択、表示します。

ラベル付け

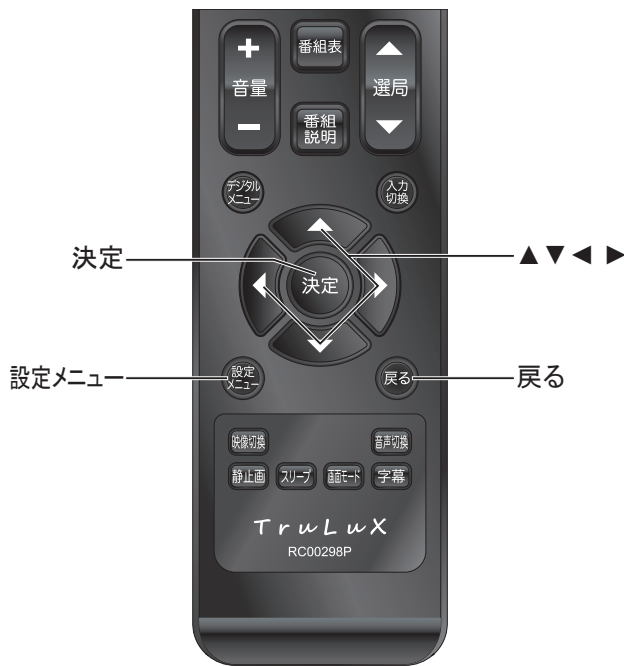
0-9 および A-Z記号でチャンネルをラベル設定します。
ラベル設定 :

1. カーソルバーを▲▼で“ラベル付け”に移動します。
2. ▲▼で英数字を選択し、◀▶でカーソルを左右に移動します。

戻るを押して設定を終了します。

チャンネル編集(テレビの場合)

放送地域に合わせてチャンネルを設定できます。自動スキャンで認識されたチャンネルは、地区番号表(☞66ページ参照)の通りに1-12のチャンネルが割り当てられます。また割り当てられたチャンネルをお好みの番号に変更することができます。この場合、◀▶ボタンでチャンネルを選択し、▲▼ボタンでNo.01-No.12のいずれかに移動させてください。

チャンネル

追加/削除（ケーブルテレビの場合）

チャンネル設定で選択したチャンネルを追加/削除します。選択したチャンネルがすでに削除されている場合は、右側に“追加”が表示されます。選択したチャンネルがすでに追加されている場合は、右側に“削除”が表示されます。

テレビチャンネルを追加/削除するには:

1. “チャンネル設定”にカーソルを合わせて、◀▶ボタンで追加/削除したいチャンネルを選択します。
2. ▲▼ボタン でカーソルを“追加/削除”に移動します。
3. ◀▶ボタンを押して“追加” または “削除”を選びます。

ご注意

チャンネルの“追加/削除”動作を確認すると、それ以降のチャンネル選択操作で、削除されたチャンネルは飛び越えて表示されず、追加されたチャンネルは選択できるようになります。削除されたチャンネルをもう一度呼び出したいときは、そのチャンネルを “追加”機能で再選択するか、“自動スキャン”でもう一度検索、記憶させてください。
数字ボタン11，12は入力が地上放送のときのみ有効です。

パソコン

パソコン用表示画面の設定を行います。

お知らせ

パソコン用画面としてPC-アナログ入力端子に接続／HDMI用画面としてHDMI入力端子に接続時のみ表示されます。

画質モード

画質モードの切り替えを行います。

- 選択項目
  スタンダード: 標準モードです。
  ダイナミック:カラー、シャープネス等をやや大きめに設定します。
  ユーザー: お客様のお好みに合わせて設定できます。

お知らせ

- **省エネモード**/**バックライト**/**コントラスト**/**明るさ**は、**ユーザー**を選択した場合のみ設定できます。

省エネモード

画面の明るさを抑えたり、消費電力を節約します。

バックライト

バックライトの明るさを調整します。

コントラスト

画面のコントラストを調整します。

明るさ

画面の明るさを調整します。

色調

5つの色温度を選択できます。

1. ▶ボタン を押して色調画面に移動します。
2. ◀▶ボタンで標準（標準色）、暖色系（濃いめの色）、寒色系（薄めの色）、sRGB（Windows標準色）、自設定（お好み）のいずれかを選択します。
3. “自設定”を選択したときは、赤、緑、青をそれぞれ調整してお好みの色を設定してください。

画面自動調整

画面の水平位置、垂直位置、微調整、水平サイズの調整を自動的に行います。この場合、▶を押します。

水平位置

画面の水平位置を調整します。

垂直位置

画面の垂直位置を調整します。

パソコン

水平サイズ

画面の水平サイズを調整します。

微調整

位相の遅延を調整します。画像が鮮明でないとき調整してください。

その他の情報

この章では、故障かなと思った場合の対処方法や用語の説明など、必要に応じてご参照いただく内容を記載しています。

故障かな？と思ったら

お問い合わせの前に

まず、以下の点をご確認ください。

- アンテナ線や電源コード、その他の接続
- 入力切換の設定
- 地上デジタル放送の受信チャンネルのスキャン状態（☞34ページ）（地上デジタル放送は受信チャンネルのスキャンを行わないと受信できません。）

以下の状態は故障ではありません。

画面の中に、点灯したままの点、または点灯しない点がある

画面上に赤や青、緑の点（輝点）が消えなかったり、黒い点（滅点）が表れたりしますが、故障ではありません。液晶画面は非常に精密な技術で作られており、99.99%以上の有効画素がありますが、ごくわずかの画素欠けや常時点灯する画素があります。

ときどき「ピシッ」というきしみ音が出る

周囲との温度差によってキャビネットがわずかに伸縮するために起こる音です。故障ではなく、性能等におよぼす悪影響もありません。

デジタル放送のチャンネルを変えたり、番組が切り換わったりするときにノイズが出る

デジタルハイビジョン信号と標準テレビ信号など、映像の解像度が変化するときに、同期信号など白い線が見えることがあります。

原因と対策

● 全般

問　　題	原　　因	対　　策
映像も音も出ない。	電源プラグがコンセントから抜けている。	電源プラグをコンセントに挿してください。
	入力選択が適切でない。	見たい映像の入力を選択してください。
電源が突然切れた/いつの間にか切れていた。	スリープタイマーが設定されている。	スリープタイマーをオフにしてください。
	VGA入力のモードで接続しているパソコンがパワーセーブモードに入った。	パソコンのパワーセーブモードから抜け出してください。
	コードの接続部が緩んでいるため、パソコンからの入力が途切れ、無信号になった。	しっかりと接続してください。
リモコンが動作しない。	電池が適切に入っていない。	指定された電池を、指定された向き(+、−)で、適切に入れてください。
	電池が消耗している。	新しい電池と交換してください。
	向きが適切でない。	リモコンを本機のリモコン受光部に向けて操作してください。
	本機のリモコン受光部に、強い光が当たっている。	リモコン受光部に強い光が当たっていると、操作を受け付けない場合があります。カーテンやその他の遮蔽物で光を調整してください。
	近くに電子レンジがある。	近くに電子レンジがあると、操作を受け付けない場合があります。できるだけ本機と電子レンジは離して設置してください。

● 映像(全般)

問　　題	原　　因	対　　策
色がおかしい/画面が暗い。	画質が適切に設定されていない。	画質を適切に設定してください。(☞46・47ページ)
画面がまぶしい。	画質が適切に設定されていない。	画質を適切に設定してください。(☞46・47ページ)
画面が一部切れる/画面が歪む。	画面モードが適切でない。	[画面モード]または設定メニューで適切な設定を選んでください。(☞44・47ページ)

● 映像(地上アナログ)

問　　題	原　　因	対　　策
受信できないチャンネルがある。	チャンネル設定が適切でない。	チャンネル設定をしなおしてください。(☞50ページ)
画像が二重/三重になる。	アンテナ線の接続部が緩んでいる。	しっかりと接続してください。
	アンテナの位置/方向/角度が適切でない。	適切に調整してください。
雪が降っているような画面/薄い画面/ちらついた画面になる。	アンテナ線の接続部が緩んでいる。	しっかりと接続してください。
	アンテナが壊れたり曲がったりしている。	アンテナの修理または買い替えを行ってください。
	アンテナが老朽化している。	アンテナの修理または買い替えを行ってください。
斑点や点模様が出る。	アンテナ線の接続部が緩んでいる。	しっかりと接続してください。
	ヘアードライヤー、自動車、バイク等の電波干渉を受けている。	道路などの雑音電波のもとから、アンテナをなるべく離して設置してください。
色じま模様等のノイズが多い。	雑音電波の影響を受けている。	アンテナ線は電源コードや他の接続ケーブルからできるだけ離してください。
		フィーダー線や室内アンテナは特に電波妨害を受けやすいので、できるだけ使用しないでください。

● 映像（デジタル放送）

問　　題	原　　因	対　　策
映像も音も出ない。	強風などでアンテナの向きが変わっている。	アンテナの向きを適切に調整してください。
	入力選択が適切でない。	見たい映像の入力を選択してください。（☞43ページ）
	B-CASカードが適切に挿入されていない。	適切に挿入してください。（☞18ページ）
地上デジタルの受信設定ができない/放送を受信できない。	アンテナが適切に接続されていない。	適切に接続してください。
	アンテナが地上デジタルに対応していない。	地上デジタルに対応したアンテナを使用してください。
	チャンネル設定が適切でない。	チャンネル設定をしなおしてください。
地上デジタルが映らない/画像が乱れる。	アンテナ線の接続部が緩んでいる。	しっかりと接続してください。
	アンテナの位置/方向/角度が適切でない。	適切に調整してください。
	本機の近くで携帯電話や電子レンジを使用している。	本機の近くでの携帯電話や電子レンジの使用をおやめください。
	チャンネル設定が適切でない。	チャンネル設定をしなおしてください。（☞34ページ）
	ブースターのレベルを上げすぎている。	ブースターのレベルを下げてください。
画面が暗くなり、何も映らない。	ラジオ放送を受信している。	デジタル放送では音声のみの放送もあります。映像を楽しみたい時は、他のチャンネルをお選びください。

● 接続した機器について

問　　題	原　　因	対　　策
接続した機器の映像が出ない。	コードの接続部が緩んでいる。	しっかりと接続してください。
	入力選択が適切でない。	見たい映像の入力を選択してください。（☞43ページ）
	接続した機器の出力設定が適切でない。	接続した機器の取扱説明書をご覧になり、設定しなおしてください。
パソコンの画像が出ない。	パソコンが、テレビに画像を出力できるように設定されていない。	パソコンの取扱説明書をご覧になり、設定しなおしてください。
ビデオの再生/録画時に縞状のノイズが出る。	ビデオデッキが本機の近くにあるため、電磁波の干渉が起きている。	ビデオデッキを本機からなるべく離して設置してください。
ビデオの再生/録画時に映像が乱れたり、映らなくなったりする。	コンポジット映像信号（通常の映像信号）やS映像信号を、AVアンプなどの外部機器を通してコンポーネント映像信号に変換すると、映像が乱れたり、映らなくなることがあります。	コンポジット映像信号またはS映像信号を、本機のAV入力に直接接続してください。

● 音声（全般）

問　　題	原　　因	対　　策
映像は出るが、音が出ない。	音量が下がりきっているか、「消音」になっている。	音量を上げてください。
片方からしか音が聞こえない/左右の音量に差がある。	バランス設定が適切でない。	設定メニューでバランスを調整してください（☞48ページ）
ヘッドホンの音が、スピーカーの音よりも聞こえにくい。	ヘッドホンのインピーダンスが合っていない。	インピーダンスの高いヘッドホンでは音が低めに出ます。本機はインピーダンスが32オームのヘッドホンに合わせて設計してあります。

● 音声（地上アナログ）

問　　題	原　　因	対　　策
雑音が多い。	雑音電波の影響を受けている。	アンテナ線は電源コードや他の接続ケーブルからできるだけ離してください。
		フィーダー線や室内アンテナは特に電波妨害を受けやすいので、できるだけ使用しないでください。
聞きたい音声になっていない。	主音声/副音声の設定が適切でない。	主音声/副音声の設定をしなおしてください。（☞45ページ）

● 音声（デジタル放送）

問　　題	原　　因	対　　策
音声が出ない/音声がおかしい。	主音声/副音声の設定が適切でない。	主音声/副音声の設定をしなおしてください。（☞45ページ）

● 音声（接続した機器）

問　　題	原　　因	対　　策
画像は出るが、音が出ない。	接続した機器の音声出力設定が適切でない。	接続した機器の取扱説明書をご覧になり、設定しなおしてください。
	音声ケーブルが正しく接続されていない。	音声ケーブルを正しく接続してください。

● 番組表

問　　題	原　　因	対　　策
番組表や他チャンネルリストが表示されないチャンネルがある。	一定時間視聴するか、待機状態にしないと表示されません。	しばらくお待ちいただくか、待機状態にしてください。
	チャンネル登録していない。	チャンネル登録をしてください。
チャンネル検索で表示される番組が少ない。	電源コードを抜いている間（電源ランプ：消灯）は、放送局が送信する番組情報を取得できないため。	リモコンの電源ボタンで電源を切り、待機状態（電源ランプ：赤）にしてください。
地上デジタルの放送局のマークが表示されない。	一定時間視聴しないと、表示されません。	しばらくそのままお待ちください。

● その他

問　　題	原　　因	対　　策
▼選局▲ボタンで選局できない。	チャンネル登録されてない。	チャンネル登録をしてください。
	複数のチャンネルで同時に同じ番組を放送しているときに、代表チャンネル以外を選局しようとしている。	代表チャンネル以外は選択できませんので、代表チャンネルで選局してください。
設定が正しく反映されない。	本機に設定が反映（記録）される前に電源を切った。	デジタル放送の信号には、多くの情報が含まれています。そのため、メニューの項目を設定した直後（約2分以内）に主電源を切ると、設定した内容が反映されないことがあります。このときは、もう一度設定をしなおしてください。
メニューが表示されない。	ソースによっては表示されないメニューもあります。	ソースを切り換えてください。
未読メールがありますと表示される。	デジタル放送や本機から発行されたメールが来ています。	メールの内容をご確認ください。（☞32ページ）

● こんな表示が出たときは

エラー番号	エラー内容	対応方法
E100	B-CASカードが未挿入です。	B-CASカードを正しく挿入して下さい。
E102	このカードは使用できません。正しいICカードを装着してください。	正しいB-CASカードを裏表、挿入方向を確認して、再挿入してください。カードのIC部の汚れや，破損の可能性があります。正しく装着しても改善されないときは，ビーエス・コンディショナルアクセスシステムズのカスタマーセンターにご連絡ください。
E103	このカードは使用できません。ご覧のチャンネルのカスタマーセンターへ連絡してください。	契約されていない番組を選局しています。別のチャンネルに変更するか、該当する放送局と契約をしてください。
無し	スクランブル解除のための情報にエラーが発生しています。ご使用のCASカードの向きを確認してください。	カードを裏表、挿入方向を確認して、再挿入してください。カードのIC部の汚れや，破損の可能性があります。正しく装着しても改善されないときは，ビーエス・コンディショナルアクセスシステムズのカスタマーセンターにご連絡ください。
E202	信号が受信できません。	天候の影響、アンテナケーブルが切れている、アンテナの向きがずれているなどの理由で全く信号入力がないなど、アンテナ線の接続に問題がある可能性があります。アンテナケーブルが切れている場合はケーブルを交換し、正しく接続してください。
E203	現在放送されていません。	受信信号が弱い・無い、また放送終了後である可能性があります。地上デジタル放送の場合は、受信できる状態でいったん初期スキャンを行い、チャンネルを設定してください。
E204	このチャンネルはありません。	実在のチャンネルが割り当てられていない数字ボタンを押した場合に表示されます。実在のチャンネルが割り当てられた数字ボタンを押してください。
無し	低階層映像に切替わりました。	降雨対応放送に切り替わりました。気象条件などにより信号レベルが低下しています。気象条件などが良くなるまで、しばらくお待ち下さい。
無し	臨時放送が休止中のためご覧の放送局の別のサービスに切換えます。	臨時放送が終了・休止中の場合に表示されます。自動的に視聴可能なチャンネルに切り換わります。

用語の解説

下記は一般的な用語解説です。本機の仕様は異なっている場合があります。

110度CSデジタル放送（本機は対応しておりません）

BSデジタル放送の放送衛星（BS）と同じ東経110度に打ち上げられた通信衛星（CS）を利用した新しいデジタル放送です。多数の専門チャンネルの中から見たいチャンネルのみを購入して視聴する仕組みになっています。一部、無料放送もあります。

5.1ch

左右のフロントスピーカー、センタースピーカー、左右のサラウンドスピーカーとサブウーファーから、それぞれ独立した音声を出力できるサラウンド方式です。臨場感と迫力のある音声を楽しむことができます。

B-CASカード

デジタル放送を見るために必要なICカードです。ユーザー認識のための番号や、チャンネルの契約・購入内容などの情報が記録されます。

BSデジタル放送（本機は対応しておりません）

2000年12月から本格サービスが開始された新しい衛星放送です。高画質で多チャンネルの放送を楽しむことができます。高音質のデジタル音声放送（BSラジオ）、ニュース・スポーツ・番組案内などの情報提供、オンラインショッピングやクイズ番組などへの参加が可能なデータ放送など、多彩なサービスを行います。

CATV（ケーブルテレビ）

同軸ケーブルや光ケーブルなどのケーブルを用いて行われる有線放送のことです。ケーブルテレビ局と契約することにより視聴できます。地域密着型の情報発信等が特徴でしたが、最近では多チャンネル放送や自主放送を行う都市型のケーブルテレビ局も増えてきています。

D端子

デジタル映像の圧縮データや高画質映像信号の伝送に適した、日本独自のコネクタの通称です。輝度信号（Y）と色差信号（Cb/Cr, Pb/Pr）で構成されるコンポーネント信号は従来3本のケーブルで接続していましたが、これを一本にまとめたものがD端子です。また、これらの信号の他に走査線数・走査方式・アスペクト比を切り換えるための識別信号の伝送も可能です。

EPG（Electronic Program Guide）

デジタル放送で放送局から送られてくる番組データを利用してつくる電子番組表のことです。

HDMI（High Definition Multimedia Interface）

PCとディスプレイの接続標準規格であるDVIに、マルチチャンネル音声伝送機能や著作権保護機能、色差伝送機能を加えるなどAV家電向けにアレンジしたインターフェースです。1本で非圧縮の映像・音声信号と制御信号を伝送できるので、AV機器間の連携が容易にできます。

NTSC（National.Television.Standards.Committee）

地上波アナログカラーテレビ放送の規格の1つで、日本や北米、中南米で採用されています。水平方向の走査線数が525本で毎秒30フレーム（1秒間に30回画面を書き換える）のインターレース方式で、水平走査周波数は15.75kHz、垂直走査周波数は60Hzです。

S映像端子

S端子は輝度信号(Y)と色信号(C)に別れた映像信号を伝送します。このうち、色信号(C)に画面の縦横比の情報を乗せることで、テレビ側での自動判別を可能にしたものがS1/S2映像端子です。

イベントリレー

番組の途中で割り込みがあったり、その他の理由で番組が放送予定時間内に終わらなかった場合に、他のチャンネルで引き続き放送を行うことです。

インターレース(飛び越し走査)

NTSC方式のテレビやビデオの画像表示では、525本の走査線があります。このうち、まず奇数段目の走査線262.5本を1/60秒で描き(この画面を1フィールドといいます)、次に偶数段目を同様に描き、これを合わせせることによって525本の完全な画像(フレーム)を作っていく方式です。「525i」「1125i」の「i」は、このインターレース(interlaced)を指しています。

コンポジット接続

通常の映像端子を使って映像信号を伝送する、最も普及している方式です。映像端子は通常1つのみで、音声端子と同じ形状で、色は黄色です。赤と白の音声出力と一緒に3本で接続するのが一般的です。

緊急警報放送

地上デジタル/BSデジタルのマルチ放送を利用し、地震などの災害時に放送される緊急ニュースなどを流します。

降雨対応放送

激しい雨による映像・音声の遮断を防ぐために、通常の放送に平行して降雨に強い方式で同じ番組を放送するものです。

字幕放送

せりふなどの音声を、文字にして画面に表示することができる放送です。

地上デジタル放送

2003年12月から一部地域で放送が開始された、地上波によるデジタル放送です。UHFの周波数帯域を利用して放送されます。ゴーストの無い高画質な映像と多チャンネルの放送を楽しむことができます。デジタルハイビジョン放送やデータ放送、双方向サービスなどを楽しむことができます。

デジタルハイビジョン放送

通常のアナログ放送の走査線が525本であるのに対し、1125本や750本のプログレッシブの高画質な映像です。大画面の映像に適しています。

プログレッシブ(順次走査)

飛び越し走査(「インターレース」の項目を参照)をしないで、全ての走査線を順番に描く方法です。インターレースに比べて画像のチラツキが少なく、文字や静止画を表示することに適しています。「525p」や「750p」の「p」はプログレッシブ(progressive)を指しています。

マルチチャンネル放送
地上デジタルやBSデジタルの標準テレビ信号（SD）で、1つの放送局で複数の番組を放送することです。

マルチビュー放送
前述のマルチチャンネルの技術を使って、同じ番組を別の視点から見た映像を見るなど、複数の映像を切り換えて見ることができます。

有効走査線数
走査線の中で、映像信号が載っている走査線の数をいいます。地上アナログでは525本の走査線のうち有効走査線数は480本、デジタルハイビジョンでは1125本のうち1080本となっています。有効走査線ではない走査線には、画面の縦横比を規定した識別制御信号などが載っています。

臨時放送
前述のマルチチャンネルの技術を使って、同一放送局の他チャンネルで臨時の放送を行うことです。

自動でデジタル放送からダウンロードする機能について

電源スタンバイ中(スタンバイランプが赤に点灯)に、本機内部のソフトウェアを最新の内容に自動で書き換える機能です。ソフトウェア書き換え用のデータ信号は、デジタル放送電波の中に含まれて送信されます。
本機はダウンロードを自動で行う設定になっているため、お客様が操作することなく、常に最新版に更新されたソフトウェアで、デジタル放送を正しく受信し、お楽しみいただけます。

主な仕様

この製品は日本国内専用です。外国では電源電圧、放送方式が異なるため使用できません。
This TV is designed only for use in Japan and cannot be used in any other countries.

型名	TLX-LED220B
質量	3.9 Kg
外形寸法(幅×高さ×奥行)	518.2 x 386.6 x 218.2 mm
LCD タイプ	21.5″
液晶パネル アスペクト比	16:9
画素数	1920 x 1080
輝度	250 cd/m^2
コントラスト比	1,000:1
視野角 上下/左右	160° /170°
解像度	1920 x 1080 @ 60 Hz (推奨) 1680 x 1050 @ 60Hz 1400 x 1050 @ 60Hz 1440 x 900 @ 60Hz 1360 x 768 @ 60 Hz 1280 x 1024 @ 60, 75 Hz 1280 x 960 @ 60 Hz 1152 x 864 @ 75 Hz 1024 x 768 @ 60, 70, 75 Hz 800 x 600 @ 56, 60, 72, 75 Hz 640 x 480 @ 60, 72, 75 Hz
音声出力	2.5W x 2
光音声出力	ー15〜 ー21dB (mW), 波長 660nm, EIAJ CP-1201準拠
	AAC 5.1ch 出力
接続端子	・HDMI映像音声入力×1 ・D映像+ステレオ音声入力×1 ・コンポジット映像十ステレオ音声入力×1(S-ビデオ映像と共用) ・S-ビデオ映像十ステレオ音声入力×1(コンポジット映像と共用) ・PC-VGA映像十ステレオ音声入力×1 ・ヘッドホン端子×1 ・アナログ/地上デジタルアンテナ入力×1 ・デジタル音声出力×1 ・ステレオ音声出力×1 ・サービス用×1
応答速度	5ms
消費電力/(待機電力)	40W/0.8W
年間消費電力	53kWh
受信チャンネル	VHFch1-ch12/UHFch13-ch62
	CATV c13-c63
	地上デジタル000〜999
使用環境/保管環境	温度:0℃〜40℃/-20℃〜60℃
	湿度:20%〜80%RH/10%〜90%RH(結露なきこと)
	高度:0〜2,000m/0〜3,790m

仕様の一部を予告無く変更することがありますのでご了承ください。

注意:TV パネルの“MENU”と“CH▼”のキーを同時に押して、近似のPCタイミングの間で切り替えを行うようにします。近似のPCタイミングは次のものがあります:
・640 x 400 @ 70Hz / 720 x 400 @ 70Hz
・1024 x 768 @ 60Hz / 1280 x 768 @ 60Hz / 1360 x 768 @ 60Hz

タイミング表

1. 対応のモード

下表は信号対応の表示モード一覧表になります。本製品は、対応対象外の解像度を持つ信号が入力されると、動作を自動的に停止するか、または表示不可能になります。最高の画質をお楽しみいただくために、下表に従って表示モードを設定してください。
(Macintoshなど、Windows 2000/XP/7 以外の動作は検証しておりません)

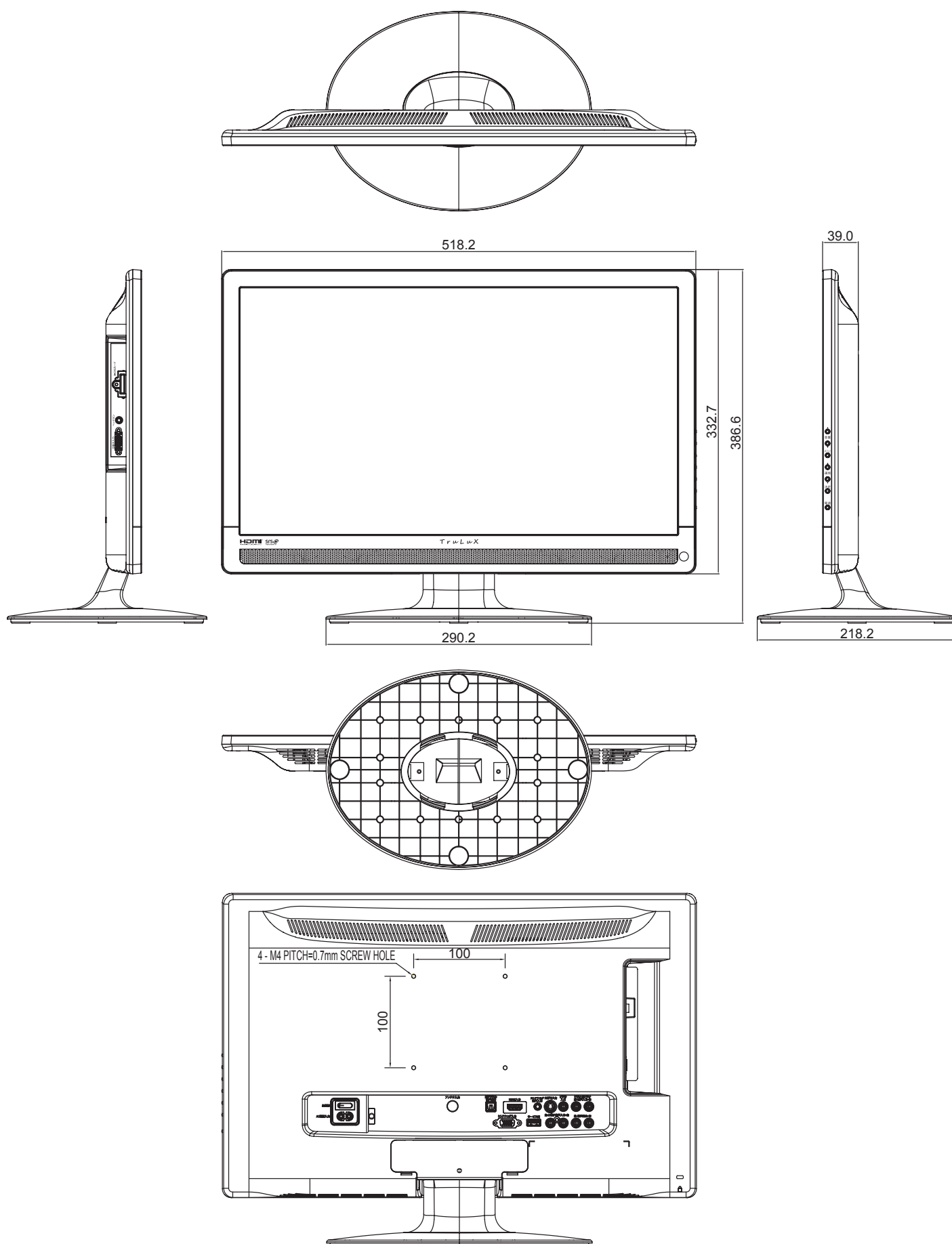
モード	CVBS	SVHS	D	HDMI	TV	VGA
RF (アナログ)	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい	いいえ
NTSC 480i	はい	はい	はい	はい	いいえ	いいえ
NTSC 480p	いいえ	いいえ	はい	はい	いいえ	いいえ
HD 720p	いいえ	いいえ	はい	はい	いいえ	いいえ
HD 1080i	いいえ	いいえ	はい	はい	いいえ	いいえ
640 x 480 @ 60Hz	いいえ	いいえ	いいえ	はい	いいえ	はい
640 x 480 @ 75Hz	いいえ	いいえ	いいえ	はい	いいえ	はい
800 x 600 @ 60Hz	いいえ	いいえ	いいえ	はい	いいえ	はい
800 x 600 @ 75Hz	いいえ	いいえ	いいえ	はい	いいえ	はい
1024 x 768 @ 60Hz	いいえ	いいえ	いいえ	はい	いいえ	はい
1024 x 768 @ 75Hz	いいえ	いいえ	いいえ	はい	いいえ	はい
1152 x 864 @ 75Hz	いいえ	いいえ	いいえ	はい	いいえ	はい
1280 x 960 @ 60Hz	いいえ	いいえ	いいえ	はい	いいえ	はい
1280 x 1024 @ 60Hz	いいえ	いいえ	いいえ	はい	いいえ	はい
1360 x 768 @ 60Hz	いいえ	いいえ	いいえ	はい	いいえ	はい
1440 x 900 @ 60Hz	いいえ	いいえ	いいえ	はい	いいえ	はい
1400 x 1050 @ 60Hz	いいえ	いいえ	いいえ	はい	いいえ	はい
1680 x 1050 @ 60Hz	いいえ	いいえ	いいえ	はい	いいえ	はい
1920 x 1080 @ 60Hz	いいえ	いいえ	いいえ	はい	いいえ	はい

2. 画面サイズの設定

モード	フル	4:3	ズーム1	ズーム2	パノラマ
NTSC 480i*	はい	はい	はい	はい	はい
NTSC 480p**	はい	はい	はい	はい	はい
HD 720p**	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
HD 1080i**	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
HD 1080p**	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
640 x 480 @ 60Hz	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
640 x 480 @ 75Hz	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
800 x 600 @ 60Hz	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
800 x 600 @ 75Hz	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
1024 x 768 @ 60Hz	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
1024 x 768 @ 75Hz	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
1280 x 720 @ 60Hz	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
1280 x 768 @ 60Hz	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
1280 x 1024 @ 60Hz	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
1360 x 768 @ 60Hz	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
1440 x 900 @ 60Hz	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
1400 x 1050 @ 60Hz	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
1680 x 1050 @ 60Hz	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
1920 x 1080 @ 60Hz	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ

※ *= 出荷値、** = D/HDMI 入力の場合でも可能

寸法図

518.2
39.0
332.7
386.6
290.2
218.2
4 - M4 PITCH=0.7mm SCREW HOLE
100
100

単位：mm

アナログ放送地域番号表

都市名	地域番号	都市名	地域番号	都市名	地域番号	都市名	地域番号	都市名	地域番号
あ		か		し		長野市	44	福岡市	87
会津若松市	21	南海市	69	静岡市	49	名古屋市	54	福島市	19
青森市	10	鹿児島市	98	下関市	78	那覇市	100	福山市	75
明石市	65	金沢市	41	上越市	38	奈良市	67	富士市	51
秋田市	15	川西市	66	せ		に		藤枝市	53
阿久根市	99	き		仙台市	13	新潟市	37	ま	
旭川市	02	北九州市	88	た		新居浜市	84	舞鶴市	61
い		北見市	09	高岡市	40	ぬ		前橋市	25
飯田市	45	岐阜市	47	高松市	82	沼津市	52	松江市	71
石巻市	14	京都市	60	高山市	48	の		松本市	46
今治市	85	桐生市	26	多摩市	32	延岡市	97	松山市	83
いわき市	20	く		ち		は		み	
岩国市	70	釧路市	05	千葉市	29	函館市	03	水戸市	22
う		熊谷市	28	つ		秦野市	36	宮崎市	96
宇都宮市	24	熊本市	94	津市	57	八王子市	31	む	
宇部市	79	久留米市	89	鶴岡市	18	八戸市	11	室蘭市	08
お		呉市	76	と		浜田市	72	も	
大分市	95	こ		東京23区	30	浜松市	50	盛岡市	12
大阪市	62	高知市	86	徳島市	81	ひ		や	
大館市	16	甲府市	43	鳥取市	70	彦根市	59	山形市	17
大津市	58	神戸市	63	苫小牧市	6	日立市	23	山口市	77
大牟田市	90	さ		富山市	39	姫路市	64	よ	
岡山市	73	さいたま市	27	豊田市	56	平塚市	34	横浜市	33
小樽市	07	佐賀市	91	豊橋市	55	広島市	74	わ	
小田原市	35	佐世保市	93	な		ふ		和歌山市	68
帯広市	04	札幌市	01	長崎市	92	福井市	42		

TruLuX

株式会社 **勝山**
〒658-0032 神戸市東灘区向洋町中6-9, 8C-02
TEL ：078-846-0711(代表) http://www.trulux.jp/
TEL ：078-846-0722(サービスセンター)

P/N: 2001132278P